

履修の手引き

2021 年度



未来を拓く医療人をめざして

北海道千歳リハビリテーション大学

Hokkaido Chitose College of Rehabilitation

目 次

はじめに

1. 北海道千歳リハビリテーション大学の教育目標	1
2. 学位授与に関する方針（ディプロマ・ポリシー）	1
3. 教育課程の編成及び実施の方針（カリキュラム・ポリシー）	2
4. 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）	2

I. 授業について

1. 学年および学期	3
2. 授業時間と時間割	3
3. クラス編成	3
4. 単位制	3
5. 単位の授与	4
6. 授業科目	4
7. 休講、補講、集中講義	4
8. 出席確認	4
9. 授業評価アンケート	4
10. 授業の録音、撮影の禁止	4

II-I. 履修について 令和元年度（2019年度）以前入学者

1. 進級要件	5
2. 卒業要件	6
3. 臨床実習	8
4. 科目一覧	9
5. 教育マップ	13
※ 単位数および授業科目の読み替え表	15

II-II. 履修について 令和2年度（2020年度）以降入学者

1. 進級要件	16
2. 卒業要件	17
3. 臨床実習	19
4. 科目一覧	20
5. 教育マップ	24

【以下の6. 履修登録～11. 取得資格は、「令和元年度（2019年度）以前入学者」と「令和2年度（2020年度）以降入学者」と共通】

6. 履修登録	26
7. 在学年限	26

8. 休学期間	26
9. 卒業認定方法	26
10. 学位の授与	26
11. 取得資格	26

Ⅲ. 試験について

1. 試験の種類	27
2. 受験資格	27
3. 受験上の注意	28
4. 不正行為が発覚した場合	28
5. 試験における不正行為	28
6. レポート等における不正行為	29

Ⅳ. 成績評価について

1. 成績評価の方法	30
2. GPA 制度	30
3. GPA の対象外	31
4. GPA の算出方法	31
5. GPA の算出例	31
6. 成績の通知	31

Ⅴ. 科目の概要について

1. 教養科目（理学療法学専攻、作業療法学専攻共通）	32
2. 専門基礎科目（理学療法学専攻、作業療法学専攻共通）	35
3. 専門科目（理学療法学専攻）	39
4. 専門科目（作業療法学専攻）	44

はじめに

本学では、教育目標のもと、学位授与に関する方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程の編成及び実施の方針（カリキュラム・ポリシー）並びに入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）を下記のとおり定めています。

皆さんは、人間力を高めつつ障害予防・健康増進などの新しいリハビリテーション医療のあり方に対応できる能力を4年間の課程で身につけるために、どのような方針および体系のもとでカリキュラムが編成されているかをしっかりと把握してください。本書は、入学から卒業までの学習を計画的に進めるために必要な情報を掲載しています。

1. 北海道千歳リハビリテーション大学の教育目標

- (1) 科学的な観察力、思考力ならびに表現力を身につける。
- (2) 他者の痛みの分かる心を持ち、他者の立場になって行動する態度を身につける。
- (3) 地域の課題に積極的に関わり、その課題解決に貢献する姿勢を養う。
- (4) 自ら問題を解決する能力と生涯にわたって学習を継続する姿勢とを養う。

2. 学位授与に関する方針（ディプロマ・ポリシー）

北海道千歳リハビリテーション大学の建学の精神は、「医療専門職教育を通じて真の人間を育成する」ことにあります。

この建学の精神に則り、「生命の尊厳」を基調とする医療専門職（理学療法士、作業療法士）としての使命感を自覚し、社会に奉仕し得る人間の育成、並びに専門的研究の成果を人類の福祉に活かしていくことのできる人材の養成を通じて、我が国の保健医療の発展と国民の健康増進に貢献することを目指しています。

この目標達成に向け、4年間の学部教育課程において、所定の期間在学して卒業に必要な単位を修得し、学位授与基準を満たしたことを定める審査に合格することによって学士（理学療法学または作業療法学）の学位を授与します。

その学位授与基準を満たすための学習到達目標は以下のとおりです。

- (1) 人間の尊厳と多様な価値観を理解し、他者との信頼関係を築き、高い倫理観をもって責任ある行動をとることができる。
- (2) 理学療法士および作業療法士として必要な専門的知識と技術を修得し、人の身体および精神機能における諸問題に対して、広い視野から捉えるとともに、根拠に基づく論理的思考をもって解決することができる。
- (3) 医学・医療の進歩ならびに社会のニーズの変化に対応するために、自己の専門性を発揮して地域社会に貢献する意欲と能力を持ち、生涯にわたり自己研鑽することができる。
- (4) 地域社会のもつ文化、個々人の生活習慣の特性、地域社会と生活に根ざしたりリハビリテーションの使命と役割について理解し、対応することができる。

3. 教育課程の編成及び実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

北海道千歳リハビリテーション大学は、本学の「建学の精神」、および「学位授与に関する方針（ディプロマ・ポリシー）」に基づき、その学習到達目標を達成するために、以下のようなカリキュラムの方針に則り編成します。

- (1) 人間、生命と健康、社会と環境、文化とコミュニケーションに対する理解を深めるため、教養科目群を設けます。
- (2) 初年度に大学での学び方を中心とした導入基礎科目を設けます。
- (3) 医学の基盤として人体の構造、機能、病態を理解する専門基礎科目と、本学の目指す予防リハビリテーションの学問的基盤を習得するため、「健康増進・障害予防」関連科目を設けます。
- (4) 理学療法、作業療法の臨床および研究活動に必要な知識、技術、問題解決能力を修得するための専門科目を設けます。
- (5) 高度で専門的な内容へ段階的に進めるよう、教養科目・専門基礎科目・専門科目の履修順序を体系的に編成します。
- (6) 学生の主体的な学習を促すために、講義、実技、演習、ゼミナール等を組み合わせることにより、各科目に適した授業を編成します。

【理学療法学専攻】

教育課程の概要

人々が共ににより豊かで健康的な生活を営むことのできるように、身体の運動機能を最良の状態に保持し、さらに改善するために必要な科学的知識と技術を修得し、広い視野を持ち多様なアプローチを用いた支援ができる理学療法士の養成を目指します。

【作業療法学専攻】

教育課程の概要

身体または精神に障害のある人に対し、およびそれらの障害をきたす可能性のある人に対し、全人間性の回復というリハビリテーションの理念のもとに、人間の身体および精神機能、日常生活の諸活動ならびに作業活動能力などを改善するために必要な知識と技術を修得し、広い視野を持ち多様なアプローチを用いた支援ができる作業療法士の養成を目指します。

4. 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

- (1) 学問に対する探究や課題解決に向けて主体的に取り組もうとする人
- (2) 人を思いやる心と倫理性を持つために他者の心身に気配りする人
- (3) 常にチャレンジ精神を持ち、積極的に他者との協調や連携を持とうとする人
- (4) 使命感を持ち、根気強く、最後まで責任を持ち続けようとする人

I. 授業について

1. 学年および学期

- (1) 学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終わります。
- (2) 学期は次の2学期です。
前期 4月1日から9月30日
後期 10月1日から3月31日
※ 授業回数確保等のため、変則的に後期の開始が9月中になることがあります。

2. 授業時間と時間割

- (1) 授業時間は、次のとおりです。授業科目によっては別に指定することがあります。

1 講目	9：00～10：30
2 講目	10：40～12：10
〈昼休み〉	12：10～13：00
3 講目	13：00～14：30
4 講目	14：40～16：10
5 講目	16：20～17：50
6 講目	18：00～19：30

- (2) 1講90分のうち、60分以上を受講しなければ欠席となります。
- (3) 時間割は、学年別、クラス別に編成されています。
※ 授業科目によっては、授業時間が変更される場合があります。この場合は、掲示板でお知らせします。
※ 必要に応じて、土曜日に授業を行うこともあります。

3. クラス編成

- (1) 理学療法学専攻は、A 組、B 組の2クラス（1クラス40名を基本とします）。
- (2) 作業療法学専攻は、1クラス（30名を基本とします）。

4. 単位制

1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して次の基準により単位数を定めています。

講義	15時間をもって1単位とする。 (教育上必要があるときは、30時間の講義をもって1単位とすることができる)
演習	30時間をもって1単位とする。 (教育上必要があるときは、15時間の講義をもって1単位とすることができる)
実習	45時間をもって1単位とする。 (教育上必要があるときは、30時間の講義をもって1単位とすることができる)

5. 単位の授与

授業科目を履修し、その科目の試験に合格した者には、所定の単位を授与します。

6. 授業科目

(1) 授業科目は、教養科目、専門基礎科目および専門科目で構成されています。

教養科目	リハビリテーションの知識と技術とが、現代社会で果たす意味を自覚できるように、必要な基本的知識を学びます。
専門基礎科目	高度な専門知識や技術を学ぶための前提となる両専攻共通の科目を学びます。
専門科目	各専攻に関する高度な理論・演習・臨床実習を系統的に学習し、実践的な手法を学びます。

(2) 各科目は、必修科目、選択必修科目および選択科目で構成されています。

必修科目	卒業までに必ず単位を修得しなければならない科目
選択必修科目	卒業までに決められた科目から決められた単位数を修得しなければならない科目
選択科目	定められた条件内で選択できる科目

7. 休講、補講、集中講義

(1) 担当教員の都合により授業ができなくなった場合は、休講となります。

(2) 補講は、休講となった授業に行います。

(3) 集中講義は、授業科目によりある一定期間に集中して講義を行います。

※ 上記(1)～(3)のほか、教室変更等のお知らせは、掲示板で行います。

8. 出席確認

すべての授業で毎回出席確認を行います。各授業科目の時間数の3分の2以上を出席しなければ、試験を受けることはできませんので、ご注意ください。(Ⅲ. 試験について2. 受験資格：参照P27)

9. 授業評価アンケート

本学では、教員の教育活動の向上について検討を行うことを目的に、臨床実習およびセミナーを除く科目の最終講義日に授業評価アンケートを無記名で実施しています。

これは、授業の質を高めるために行うもので、皆さんの素直な評価をお願いします。

10. 授業の録音、撮影の禁止

本学では、個人情報の保護、プライバシーへの配慮および著作権保護の観点から、授業のすべてについて、録音、撮影は禁止します。ただし、「合理的配慮」等の個別事情については、担当教員に相談してください。

Ⅱ-I. 履修について 令和元年度（2019年度）以前入学者

1. 進級要件

学生が進級するためには、次の条件を満たさなければなりません。

- (1) その学年の必修科目、選択必修科目の単位を全て修得すること。
- (2) 理学療法学専攻および作業療法学専攻ごとに規定する単位数を修得していること。

【理学療法学専攻】

要件	1年生	2年生	3年生
	2年次へ進級するために1年次修了時までに修得しなければならない単位数	3年次へ進級するために2年次修了時までに修得しなければならない単位数	4年次へ進級するために3年次修了時までに修得しなければならない単位数
単	教養科目 14単位	教養科目 17単位	教養科目 22単位
位	専門基礎科目 16単位	専門基礎科目 37単位	専門基礎科目 38単位
数	専門科目 3単位	専門科目 11単位	専門科目 41単位

【作業療法学専攻】

要件	1年生	2年生	3年生
	2年次へ進級するために1年次修了時までに修得しなければならない単位数	3年次へ進級するために2年次修了時までに修得しなければならない単位数	4年次へ進級するために3年次修了時までに修得しなければならない単位数
単	教養科目 14単位	教養科目 17単位	教養科目 22単位
位	専門基礎科目 16単位	専門基礎科目 36単位	専門基礎科目 37単位
数	専門科目 3単位	専門科目 16単位	専門科目 41単位

2. 卒業要件

学生が卒業するためには、理学療法学専攻および作業療法学専攻ごとに規定する所定の科目を履修し、必要な単位数を修得しなければなりません。

【理学療法学専攻】

- (1) 理学療法学専攻における卒業に必要な単位取得数は、129単位です。
- (2) 最も履修単位が多い1年次の履修可能単位数は、43単位（必修科目30単位、選択科目13単位）であることから、この43単位をもって1年間の履修科目の登録上限とします。

科 目	必修科目	選択科目	合 計
教養科目	17単位	5単位	22単位
専門基礎科目	37単位	3単位	40単位
専門科目	0単位	67単位	67単位
合 計	54単位	75単位	129単位

※ 専門科目の選択科目は、選択必修科目から57単位および選択科目から10単位以上を修得しなければなりません。なお、選択科目の履修は下記により選択してください。

理 学 療 法 臨床実習	臨床見学セミナー（理学療法）	1年前期	1単位	8 科 目 よ り 4 単 位 以 上 選 択
	臨床評価学セミナー（理学療法）	3年前期	1単位	
	臨床治療学セミナーⅠ（理学療法）	4年前期	1単位	
	臨床治療学セミナーⅡ（理学療法）	4年前期	1単位	
応 用 理 学 療法	理学療法管理学	4年後期	1単位	7 科 目 よ り 6 単 位 以 上 選 択
	理学療法ゼミⅠ	3年通年	2単位	
	理学療法ゼミⅡ	4年後期	4単位	
応 用 リ ハ ビ リ テ ー ション	国際医療支援論	4年後期	1単位	7 科 目 よ り 6 単 位 以 上 選 択
応 用 理 学 療法	スポーツ傷害理学療法学	3年前期	1単位	
	高齢者理学療法学	3年前期	1単位	
	神経筋疾患理学療法学	3年前期	1単位	
	神経障害理学療法学特論	4年後期	2単位	
	運動器障害理学療法学特論	4年後期	2単位	
	内部障害理学療法学特論	4年後期	2単位	
応 用 リ ハ ビ リ テ ー ション	生活行為向上リハビリテーション論	3年前期	2単位	

【作業療法学専攻】

- (1) 作業療法学専攻における卒業に必要な単位取得数は、129単位です。
- (2) 最も履修単位が多い1年次の履修可能単位数は、44単位（必修科目30単位、選択科目14単位）であることから、この44単位をもって1年間の履修科目の登録上限とします。

科 目	必修科目	選択科目	合 計
教養科目	17単位	5単位	22単位
専門基礎科目	37単位	2単位	39単位
専門科目	0単位	68単位	68単位
合 計	54単位	75単位	129単位

※ 専門科目の選択科目は、選択必修科目から60単位および選択科目から8単位以上を修得しなければなりません。なお、選択科目の履修は下記により選択してください。

作業療法 臨床実習	臨床見学セミナー（作業療法）	1年前期	1単位	6科目 より4 単位以 上選択
	臨床評価学セミナー（作業療法）	3年前期	1単位	
	臨床治療学セミナーⅠ（作業療法）	4年前期	1単位	
	臨床治療学セミナーⅡ（作業療法）	4年前期	1単位	
応用作業 療法	作業療法管理学	4年後期	1単位	
応用リハ ビリテー ション	国際医療支援論	4年後期	1単位	
応用作業 療法	作業療法特別セミナー	4年後期	3単位	6科目 より4 単位以 上選択
	特別支援教育概論	4年後期	1単位	
	箱づくり法	4年後期	1単位	
	身体・老年期障害作業治療学特論	4年後期	1単位	
	精神障害作業治療学特論	4年後期	1単位	
	発達障害作業治療学特論	4年後期	1単位	

3. 臨床実習

理学療法学専攻および作業療法学専攻の臨床実習は、基礎的な理学療法・作業療法が実施できるレベルを目指し、人を思いやる心や責任感を養うことを目標としています。同時に、観察力や思考力及び表現力を高めることで対象となる方々の有する問題を解決する能力を身につけることを目指します。

【理学療法学専攻】

科 目 名	単位数	時 期	期 間
①臨床見学実習(理学療法)	1単位	1年前期(9月予定)	1週間
②臨床評価学実習(理学療法)	4単位	3年前期(8～9月予定)	4週間
③臨床治療学実習Ⅰ(理学療法)	8単位	4年前期(4～6月予定)	8週間
④臨床治療学実習Ⅱ(理学療法)	8単位	4年前期(7～8月予定)	8週間

※ ②臨床評価学実習(理学療法)の履修条件

専門科目の科目区分「理学療法評価学」のすべての授業科目および臨床見学実習(理学療法)を修得していなければなりません。

※ ③臨床治療学実習Ⅰ(理学療法)および④臨床治療学実習Ⅱ(理学療法)の履修条件

専門科目の科目区分「理学療法治療学」のすべての授業科目および臨床評価学実習(理学療法)を修得していなければなりません。

【作業療法学専攻】

科 目 名	単位数	時 期	期 間
①臨床見学実習(作業療法)	1単位	1年前期(9月予定)	1週間
②臨床評価学実習(作業療法)	4単位	3年前期(8～9月予定)	4週間
③臨床治療学実習Ⅰ(作業療法)	8単位	4年前期(4～6月予定)	8週間
④臨床治療学実習Ⅱ(作業療法)	8単位	4年前期(7～8月予定)	8週間

※ ②臨床評価学実習(作業療法)の履修条件

専門科目の科目区分「作業療法評価学」のすべての授業科目、作業分析学、日常生活活動学(作業療法)および臨床見学実習(作業療法)を修得していなければなりません。

※ ③臨床治療学実習Ⅰ(作業療法)および④臨床治療学実習Ⅱ(作業療法)の履修条件

専門科目の科目区分「作業療法治療学」のすべての授業科目および臨床評価学実習(作業療法)を修得していなければなりません。

4. 科目一覧

理学療法学専攻の科目一覧

科目区分		授業科目の名称	授業形態	必要単位数	配当年次							
					1年次		2年次		3年次		4年次	
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
教養科目（計33単位）	導 科 目 基 礎	学びの技法	講	必修17単位＋選択5単位以上	必(1)							
		理解と表現	講		必(2)							
		社会貢献の方法と実践	講		必(1)							
		情報学	講		選(1)							
	人 間 の 理 解	心理学	講		必(2)							
		倫理学	講		選(1)							
		応用倫理学	講			必(1)						
		思想の歴史	講			選(1)						
		歴史学	講			選(1)						
	社 会 の 認 識	社会調査法	講		選(1)							
		現代の社会と人間	講				必(1)					
		北海道の医療と社会・経済	講			必(1)						
		文化人類学	講				選(1)					
	自 然 の 探 求	生命科学概論	講		必(1)							
		自然科学概論	講		必(1)							
		統計学	講		選(1)							
		生物学	講		選(1)							
		基礎生化学	講			必(2)						
		物理学	講			選(1)						
	英 語 科 目	スポーツ・レクリエーション学	講					選(1)				
		基礎英語	講		必(2)							
		英会話	講			選(2)						
		英語ライティング	講					選(2)				
		保健医学英語Ⅰ	講					必(2)				
		保健医学英語Ⅱ	講						選(2)			
専門基礎科目（計42単位）	基 礎 医 学	人体構造機能学Ⅰ（筋・骨関節系）	講	必修37単位＋選択3単位以上	必(2)							
		人体構造機能学Ⅰ（神経系）	講		必(2)							
		人体構造機能学Ⅰ（内臓・脈管系）	講			必(2)						
		人体構造機能学Ⅱ（筋・骨関節系）	演			必(1)						
		人体構造機能学Ⅱ（神経系）	演			必(1)						
		人体構造機能学Ⅱ（内臓・脈管系）	演				必(1)					
		人体構造機能学実習	実					必(3)				
		運動学	講			必(2)						
		運動学演習	演			必(2)						
		老年学	講				必(1)					
		人間発達学	講			必(1)						
		精神障害基礎論	講				必(1)					
	臨 床 医 学	薬理学概論	講					選(1)				
		医学概論	講				必(1)					
		リハビリテーション概論	講		必(1)							
		周術期医療基礎論	講				必(1)					
		内部障害基礎論	講				必(2)					
		運動器障害基礎論	講				必(2)					
		中枢神経障害基礎論	講				必(2)					
		発達障害基礎論	講				必(1)					
		医用画像解析学概論	講					選(1)				
		臨床心理学	講				必(2)					
		医療安全管理学	講						必(1)			
	保 健 医 療 福 祉 と シ ョ ン の 理 念	公衆衛生学	講								必(1)	
		福祉介護概論	講					選(1)				
		在宅リハビリテーション学	講					選(1)				
		言語聴覚療法概論	講					選(1)				
		健康増進障害予防概論	講			必(2)						
		健康増進障害予防演習Ⅰ（検査測定）	演					必(1)				
		健康増進障害予防演習Ⅱ（実践指導）	演								必(1)	

科目区分		授業科目の名称	授業形態	必要単位数	配当年次							
					1年次		2年次		3年次		4年次	
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
専門科目（計80単位）	基礎理学	理学療法概論	講	選択67単位以上	選必(1)							
		日常生活活動学(理学療法)	講					選必(2)				
		物理療法学	講						選必(2)			
		義肢装具学（理学療法）	講						選必(2)			
	理学療法評価学	理学療法基礎評価学Ⅰ	講				選必(1)					
		理学療法基礎評価学Ⅰ演習	演				選必(1)					
		理学療法基礎評価学Ⅱ	講					選必(2)				
		日常生活活動評価学	講					選必(1)				
		日常生活活動評価学演習	演					選必(1)				
		理学療法治療学	神経障害理学療法学		講					選必(2)		
	神経障害理学療法学演習		演						選必(1)			
	神経障害理学療法学実習		実							選必(1)		
	運動器障害理学療法学		講						選必(2)			
	運動器障害理学療法学演習Ⅰ		演						選必(1)			
	運動器障害理学療法学演習Ⅱ		演							選必(1)		
	内部障害理学療法学		講						選必(2)			
	内部障害理学療法学演習Ⅰ		演						選必(1)			
	内部障害理学療法学演習Ⅱ		演							選必(1)		
	療理地法		地域理学療法学		講						選必(2)	
		生活環境学（理学療法）	講							選必(2)		
	理学療法臨床実習	臨床見学セミナー（理学療法）	演		選(1)							
		臨床見学実習（理学療法）	実		選必(1)							
		臨床評価学セミナー（理学療法）	演						選(1)			
		臨床評価学実習（理学療法）	実						選必(4)			
		臨床治療学セミナーⅠ（理学療法）	演								選(1)	
		臨床治療学実習Ⅰ（理学療法）	実								選必(8)	
		臨床治療学セミナーⅡ（理学療法）	演								選(1)	
		臨床治療学実習Ⅱ（理学療法）	実								選必(8)	
	応用理学療法	ケーススタディー	講							選必(2)		
		理学療法研究法	講							選必(1)		
		理学療法研究法演習（卒業研究）	演								選必(4)	
		理学療法管理学	講									選(1)
		理学療法ゼミⅠ	講						選(2)			
		理学療法ゼミⅡ	講									選(4)
		スポーツ傷害理学療法学	講						選(1)			
		高齢者理学療法学	講						選(1)			
		神経筋疾患理学療法学	講						選(1)			
		神経障害理学療法学特論	講									選(2)
		運動器障害理学療法学特論	講									選(2)
		内部障害理学療法学特論	講									選(2)
	シテハ応用リ	生活行為向上リハビリテーション論	講						選(2)			
		国際医療支援論	講									選(1)
合計単位数				155	23	20	18	20	23	15	36	

※授業形態 「講」：講義 「演」：演習 「実」：実験・実習
 ※配当年次 「必」：必修科目 「選必」：選択必修科目 「選」：選択科目

令和元年度（2019 年度）以前入学者

作業療法学専攻の科目一覧

科目区分		授業科目の名称	授業形態	必要単位数	配当年次							
					1 年次		2 年次		3 年次		4 年次	
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
教養科目（計 33 単位）	導 科 入 目 基 礎	学びの技法	講	必修 17 単位 + 選択 5 単位以上	必(1)							
		理解と表現	講		必(2)							
		社会貢献の方法と実践	講		必(1)							
		情報学	講		選(1)							
	人 間 の 理 解	心理学	講		必(2)							
		倫理学	講		選(1)							
		応用倫理学	講			必(1)						
		思想の歴史	講			選(1)						
		歴史学	講			選(1)						
	社 会 の 認 識	社会調査法	講		選(1)							
		現代の社会と人間	講				必(1)					
		北海道の医療と社会・経済	講			必(1)						
		文化人類学	講				選(1)					
	自 然 の 探 求	生命科学概論	講		必(1)							
		自然科学概論	講		必(1)							
		統計学	講		選(1)							
		生物学	講		選(1)							
		基礎生化学	講			必(2)						
		物理学	講			選(1)						
	英 語 科 目	スポーツ・レクリエーション学	講					選(1)				
		基礎英語	講		必(2)							
		英会話	講			選(2)						
		英語ライティング	講					選(2)				
		保健医学英語 I	講					必(2)				
		保健医学英語 II	講						選(2)			
専門基礎科目（計 42 単位）	基 礎 医 学	人体構造機能学 I（筋・骨関節系）	講	必修 37 単位 + 選択 2 単位以上	必(2)							
		人体構造機能学 I（神経系）	講		必(2)							
		人体構造機能学 I（内臓・脈管系）	講			必(2)						
		人体構造機能学 II（筋・骨関節系）	演			必(1)						
		人体構造機能学 II（神経系）	演			必(1)						
		人体構造機能学 II（内臓・脈管系）	演				必(1)					
		人体構造機能学実習	実					必(3)				
		運動学	講			必(2)						
		運動学演習	演			必(2)						
		老年学	講				必(1)					
		人間発達学	講			必(1)						
	臨 床 医 学	精神障害基礎論	講				必(1)					
		薬理学概論	講					選(1)				
		医学概論	講				必(1)					
		リハビリテーション概論	講		必(1)							
		周術期医療基礎論	講				必(1)					
		内部障害基礎論	講				必(2)					
		運動器障害基礎論	講				必(2)					
		中枢神経障害基礎論	講				必(2)					
		発達障害基礎論	講				必(1)					
		医用画像解析学概論	講					選(1)				
		臨床心理学	講				必(2)					
		医療安全管理学	講						必(1)			
	保 健 医 療 福 祉 と シ ョ ン の 理 念	公衆衛生学	講								必(1)	
		福祉介護概論	講					選(1)				
		在宅リハビリテーション学	講					選(1)				
		言語聴覚療法概論	講					選(1)				
		健康増進障害予防概論	講			必(2)						
		健康増進障害予防演習 I（検査測定）	演					必(1)				
		健康増進障害予防演習 II（実践指導）	演									必(1)

科目区分		授業科目の名称	授業形態	必要単位数	配当年次									
					1年次		2年次		3年次		4年次			
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
専門科目（計74単位）	基礎作業療法	作業療法概論	講	選択68単位以上	選必(1)									
		作業学概論	講					選必(2)						
		作業分析学	演					選必(2)						
		日常生活活動学（作業療法）	講					選必(2)						
		日常生活活動学（作業療法）演習	演						選必(1)					
		義肢装具学（作業療法）	講							選必(1)				
		義肢装具学（作業療法）演習	演							選必(1)				
		社会生活行為学	講							選必(1)				
	作業療法評価学	作業療法評価学（身体・老年期障害）	講			選必(1)								
		作業療法評価学演習Ⅰ（身体・老年期障害）	演				選必(1)							
		作業療法評価学演習Ⅱ（身体・老年期・発達障害）	演					選必(1)						
		作業療法評価学（精神障害）	講					選必(1)						
		作業療法評価学演習Ⅲ（精神障害）	演					選必(1)						
		作業療法評価学（発達障害）	講					選必(1)						
		作業療法評価学（高次脳機能障害）	講					選必(1)						
		作業療法評価学演習Ⅳ（高次脳機能障害）	演					選必(1)						
	作業療法学	身体障害作業治療学	講							選必(2)				
		精神障害作業治療学	講							選必(2)				
		発達障害作業治療学	講								選必(2)			
		老年期障害作業治療学	講								選必(2)			
		高次脳機能障害作業治療学	講								選必(1)			
	療作地業域	生活環境学（作業療法）	講							選必(2)				
		地域作業療法学	講								選必(2)			
	作業療法臨床実習	臨床見学セミナー（作業療法）	演			選(1)								
		臨床見学実習（作業療法）	実			選必(1)								
		臨床評価学セミナー（作業療法）	演							選(1)				
		臨床評価学実習（作業療法）	実							選必(4)				
		臨床治療学セミナーⅠ（作業療法）	演									選(1)		
		臨床治療学実習Ⅰ（作業療法）	実									選必(8)		
		臨床治療学セミナーⅡ（作業療法）	演									選(1)		
		臨床治療学実習Ⅱ（作業療法）	実									選必(8)		
	応用作業療法	作業療法研究法	講								選必(1)			
		作業療法研究法演習（卒業研究）	演										選必(4)	
		作業療法管理学	講											選(1)
		作業療法特別セミナー	講											選(3)
		特別支援教育概論	講											選(1)
		箱づくり法	講											選(1)
		身体・老年期障害作業治療学特論	講											選(1)
		精神障害作業治療学特論	講											選(1)
	シハテョーリ	生活行為向上リハビリテーション論	講							選必(2)				
		国際医療支援論	講											選(1)
		合計単位数				149	23	21	17	26	16	12	34	

※授業形態 「講」：講義 「演」：演習 「実」：実験・実習
 ※配当年次 「必」：必修科目 「選必」：選択必修科目 「選」：選択科目

5. 教育マップ

(1) 教養科目

教養科目では、直接人を相手とする医療専門職に必須である豊かな人間性を培い、同時にリハビリテーションの知識と技術とが現代社会で果たす意味を学生が自覚できるようになることを目指しています。学生がリハビリテーション医療従事者としての使命感とやり甲斐とを、まず明確にしてほしいと願っています。具体的には、学習をはじめに当たってまず身につけておくべき態度と技術を教える「導入基礎科目」、そして人間・社会・自然に関する幅広い理解を得るために、「人間の理解」、「社会の認識」、「自然の探求」という科目区分を設けてあります。また、英語能力の多面的な修得のために、3年次まで多くの授業科目が開講されます。

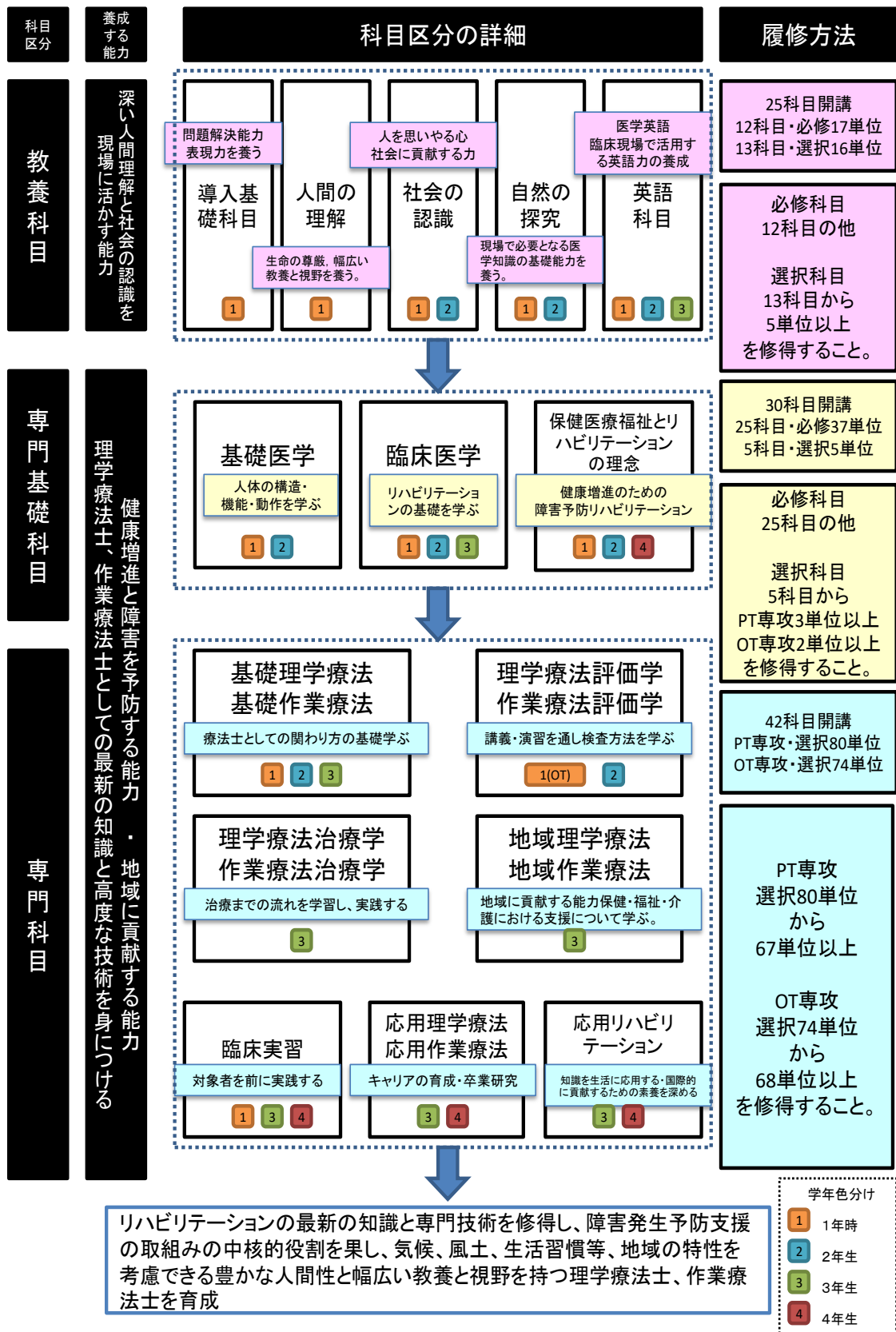
(2) 専門基礎科目

専門基礎科目は、専門科目を学修する前に、その基礎となる事柄を修得します。「基礎医学」11科目、「臨床医学」12科目、「保健医療福祉とリハビリテーションの理念」7科目の3区分からなります。

(3) 専門科目

専門科目では、理学療法士、作業療法士になるために必須な専門的知識と技術を学修します。「基礎理学療法・基礎作業療法」、「理学療法評価学・作業療法評価学」、「理学療法治療学・作業療法治療学」、「地域理学療法・地域作業療法」、「理学療法臨床実習・作業療法臨床実習」、「応用理学療法・応用作業療法」、「応用リハビリテーション」の7つの科目区分からなり、理学療法学専攻42科目、作業療法学専攻42科目の授業科目があります。

健康科学部 リハビリテーション学科



※ 単位数および授業科目の読み替え表

入学時の教育課程が卒業まで適用されます。履修した授業科目の試験結果が不合格になるなど、本来の開講学年で単位を履修することができない場合、次年度に再履修し、試験に合格することで単位を修得することができます。ただし、教育課程の改正（授業科目の廃止・新設・単位数の変更）に伴い、当該授業科目を再履修できなくなる場合があります。

このため、廃止・単位数が変更された授業科目の代わりに別の授業科目を履修し、単位を修得することで、廃止・単位数が変更された授業科目の単位を修得したものとして読み替えることがあります。

この授業科目の読み替え方法については、下記を確認してください。また、不明な点がありましたら、自分で判断せずに必ず学務課で確認してください。

単位数および授業科目の読み替え表

		2019年度以前カリキュラム				2020年度以降カリキュラム				変更内容	2019年度以前入学者が2020年度以降カリキュラムを履修する際の読み替えの対応
		授業科目の名称	配当 年次	単位数		配当 年次	単位数				
				必 修	選 択		必 修	選 択			
両専攻	専門基礎科目	人体構造機能学Ⅰ（筋・骨関節系）	1前	2		1前	3		単位数増加	2019年度以前カリキュラムの単位数取得とする	
		運動学	1後	2		1後	4		単位数増加	2019年度以前カリキュラムの単位数取得とする	
		運動学演習	1後	2		1後	3		単位数増加	2019年度以前カリキュラムの単位数取得とする	
		薬理学概論	2後		1	2後		1	選択から必修へ	2019年度以前カリキュラムの選択科目としての単位取得とする	
		運動器障害基礎論	2前	2		2前	3		単位数増加	2019年度以前カリキュラムの単位数取得とする	
		医用画像解析学概論	2後		1	2後		1	選択から必修へ	2019年度以前カリキュラムの選択科目としての単位取得とする	
理学療法専攻	専門科目	理学療法基礎評価学Ⅰ	2前		選必1	2前		選必2	単位数増加	2019年度以前カリキュラムの単位数取得とする	
		理学療法基礎評価学Ⅱ	2後		選必2	2後		選必3	単位数増加	2019年度以前カリキュラムの単位数取得とする	
		臨床見学セミナー（理学療法）	1前		1	1前		選必1	選択から選択必修へ	2019年度以前カリキュラムの選択科目としての単位取得とする	
		臨床評価学セミナー（理学療法）	3前		1	3後		選必1	履修期変更と選択から選択必修へ	2020年度以降カリキュラムの開講期に履修し、2019年度以前カリキュラムの選択科目としての単位取得とする	
		臨床評価学実習（理学療法）	3前		4	3後		選必4	履修期変更と選択から選択必修へ	2020年度以降カリキュラムの開講期に履修し、2019年度以前カリキュラムの選択科目としての単位取得とする	
		臨床治療学セミナーⅠ（理学療法）	4前		1	4前		選必1	選択から選択必修へ	2019年度以前カリキュラムの選択科目としての単位取得とする	
		臨床治療学セミナーⅡ（理学療法）	4前		1	4前		選必1	選択から選択必修へ	2019年度以前カリキュラムの選択科目としての単位取得とする	
		理学療法管理学	4後		1	4後		選必2	単位数増加と選択から選択必修へ	2019年度以前カリキュラムの選択科目、単位数としての単位取得とする	
		理学療法ゼミⅠ	3通		2	3通		選必2	選択から選択必修へ	2019年度以前カリキュラムの選択科目としての単位取得とする	
		理学療法ゼミⅡ	4後		4	4後		選必4	選択から選択必修へ	2019年度以前カリキュラムの選択科目としての単位取得とする	
		高齢者理学療法学	3前		1	3前		選必1	選択から選択必修へ	2019年度以前カリキュラムの選択科目としての単位取得とする	
		神経筋疾患理学療法学	3前		1	3前		選必1	選択から選択必修へ	2019年度以前カリキュラムの選択科目としての単位取得とする	
作業療法専攻	専門科目	作業学概論	2後		選必2	2後		選必1	単位数減少	2019年度以前カリキュラムの学生を対象とした講義を別に開講する	
		日常生活活動学（作業療法）	2後		選必2	3前		選必2	履修年度変更	2019年度以前カリキュラムの学生を対象とした講義を別に開講する	
		義肢装具学（作業療法）	3後		選必1	3前		選必1	履修期変更	2020年度以降カリキュラムの開講期に履修する	
		義肢装具学（作業療法）演習	3後		選必1	3前		選必1	履修期変更	2020年度以降カリキュラムの開講期に履修する	
		精神障害作業治療学	3前		選必1	3後		選必1	履修期変更	2020年度以降カリキュラムの開講期に履修する	
		総合事例演習	3後			3後		選必2	新科目	聴講を認めるが単位は選択としても認めない	
		総合実技演習	3後			3後		選必2	新科目	聴講を認めるが単位は選択としても認めない	
		地域作業療法学	3後		選必2	3前		選必2	履修期変更	2020年度以降カリキュラムの開講期に履修する	
		臨床見学セミナー（作業療法）	1前		1	1前			科目廃止	2020年度以降カリキュラムの「臨床見学セミナーⅠ（作業療法）」を履修することで読み替える	
		臨床見学実習（作業療法）	1前		選必1	1前			科目廃止	2020年度以降カリキュラムの「臨床見学実習Ⅰ（作業療法）」を履修することで読み替える	
		臨床見学セミナーⅠ（作業療法）	1前			1前		1	新科目	2019年度以前カリキュラムの「臨床見学セミナー（作業療法）」として読み替える	
		臨床見学実習Ⅰ（作業療法）	1前			1前		選必1	新科目	2019年度以前カリキュラムの「臨床見学実習（作業療法）」として読み替える	
		臨床見学セミナーⅡ（作業療法）	2前			2前		1	新科目	聴講を認めるが単位は選択としても認めない	
		臨床見学実習Ⅱ（作業療法）	2前			2前		選必1	新科目	履修を認めない	
		臨床評価学セミナー（作業療法）	3前		1	3後		1	履修期変更	2020年度以降カリキュラムの開講期に履修する	
		臨床評価学実習（作業療法）	3前		選必1	3後		選必1	履修期変更	2020年度以降カリキュラムの開講期に履修する	
		作業療法管理学	4後		1	4後		選必2	単位数増加と選択から選択必修へ	2019年度以前カリキュラムの選択科目、単位数としての単位取得とする	

Ⅱ-Ⅱ. 履修について 令和2年度（2020年度）以降入学者

1. 進級要件

学生が進級するためには、次の条件を満たさなければなりません。

- (1) その学年の必修科目、選択必修科目の単位を全て修得すること。
- (2) 理学療法学専攻および作業療法学専攻ごとに規定する単位数を修得していること。

【理学療法学専攻】

要件	1年生	2年生	3年生
	2年次へ進級するために1年次修了時までに修得しなければならない単位数	3年次へ進級するために2年次修了時までに修得しなければならない単位数	4年次へ進級するために3年次修了時までに修得しなければならない単位数
単	教養科目 14単位	教養科目 17単位	教養科目 22単位
位	専門基礎科目 20単位	専門基礎科目 42単位	専門基礎科目 43単位
数	専門科目 3単位	専門科目 13単位	専門科目 45単位

【作業療法学専攻】

要件	1年生	2年生	3年生
	2年次へ進級するために1年次修了時までに修得しなければならない単位数	3年次へ進級するために2年次修了時までに修得しなければならない単位数	4年次へ進級するために3年次修了時までに修得しなければならない単位数
単	教養科目 14単位	教養科目 17単位	教養科目 22単位
位	専門基礎科目 20単位	専門基礎科目 42単位	専門基礎科目 43単位
数	専門科目 3単位	専門科目 14単位	専門科目 44単位

2. 卒業要件

学生が卒業するためには、理学療法学専攻および作業療法学専攻ごとに規定する所定の科目を履修し、必要な単位数を修得しなければなりません。

【理学療法学専攻】

- (1) 理学療法学専攻における卒業に必要な単位取得数は、146単位です。
- (2) 最も履修単位が多い1年次の履修可能単位数は、47単位（必修科目34単位、選択科目13単位）であることから、この47単位をもって1年間の履修科目の登録上限とします。

科 目	必修科目	選択科目	合 計
教養科目	17単位	5単位	22単位
専門基礎科目	44単位	1単位	45単位
専門科目	0単位	79単位	79単位
合 計	61単位	85単位	146単位

※ 専門科目の選択科目は、選択必修科目から73単位および選択科目から6単位以上を修得しなければなりません。なお、選択科目の履修は下記により選択してください。

応用リハビリテーション	国際医療支援論	4年後期	1単位	6科目より6単位以上選択
応用理学療法	スポーツ傷害理学療法学	3年前期	1単位	
	神経障害理学療法学特論	4年後期	2単位	
	運動器障害理学療法学特論	4年後期	2単位	
	内部障害理学療法学特論	4年後期	2単位	
応用リハビリテーション	生活行為向上リハビリテーション論	3年前期	2単位	

【作業療法学専攻】

- (1) 作業療法学専攻における卒業に必要な単位取得数は、142単位です。
- (2) 最も履修単位が多い1年次の履修可能単位数は、48単位（必修科目34単位、選択科目14単位）であることから、この48単位をもって1年間の履修科目の登録上限とします。

科 目	必修科目	選択科目	合 計
教養科目	17単位	5単位	22単位
専門基礎科目	44単位	1単位	45単位
専門科目	0単位	75単位	75単位
合 計	61単位	81単位	142単位

※ 専門科目の選択科目は、選択必修科目から66単位および選択科目から9単位以上を修得しなければなりません。なお、選択科目の履修は下記により選択してください。

作業療法 臨床実習	臨床見学セミナーⅠ（作業療法）	1年前期	1単位	6科目 より5 単位以 上選択
	臨床見学セミナーⅡ（作業療法）	2年前期	1単位	
	臨床評価学セミナー（作業療法）	3年後期	1単位	
	臨床治療学セミナーⅠ（作業療法）	4年前期	1単位	
	臨床治療学セミナーⅡ（作業療法）	4年前期	1単位	
応用リハ ビリテー ション	国際医療支援論	4年後期	1単位	
応用作業 療法	作業療法特別セミナー	4年後期	3単位	6科目 より4 単位以 上選択
	特別支援教育概論	4年後期	1単位	
	箱づくり法	4年後期	1単位	
	身体・老年期障害作業治療学特論	4年後期	1単位	
	精神障害作業治療学特論	4年後期	1単位	
	発達障害作業治療学特論	4年後期	1単位	

3. 臨床実習

理学療法学専攻および作業療法学専攻の臨床実習は、基礎的な理学療法・作業療法が実施できるレベルを目指し、人を思いやる心や責任感を養うことを目標としています。同時に、観察力や思考力及び表現力を高めることで対象となる方々の有する問題を解決する能力を身につけることを目指します。

【理学療法学専攻】

科 目 名	単位数	時 期	期 間
①臨床見学実習(理学療法)	1単位	1年前期(9月予定)	1週間
②臨床評価学実習(理学療法)	4単位	3年後期(2月予定)	4週間
③臨床治療学実習Ⅰ(理学療法)	8単位	4年前期(4～6月予定)	8週間
④臨床治療学実習Ⅱ(理学療法)	8単位	4年前期(7～8月予定)	8週間

※ ②臨床評価学実習(理学療法)の履修条件

専門科目の科目区分「理学療法評価学」のすべての授業科目および臨床見学実習(理学療法)を修得していなければなりません。

※ ③臨床治療学実習Ⅰ(理学療法)および④臨床治療学実習Ⅱ(理学療法)の履修条件

専門科目の科目区分「理学療法治療学」のすべての授業科目および臨床評価学実習(理学療法)を修得していなければなりません。

【作業療法学専攻】

科 目 名	単位数	時 期	期 間
①臨床見学実習Ⅰ(作業療法)	1単位	1年前期(9月予定)	1週間
②臨床見学実習Ⅱ(作業療法)	1単位	2年前期(9月予定)	1週間
③臨床評価学実習(作業療法)	4単位	3年後期(2月予定)	4週間
④臨床治療学実習Ⅰ(作業療法)	8単位	4年前期(4～6月予定)	8週間
⑤臨床治療学実習Ⅱ(作業療法)	8単位	4年前期(7～8月予定)	8週間

※ ③臨床評価学実習(作業療法)の履修条件

専門科目の科目区分「作業療法評価学」のすべての授業科目、作業分析学、日常生活活動学(作業療法)、臨床見学実習Ⅰ(作業療法)および臨床見学実習Ⅱ(作業療法)を修得していなければなりません。

※ ④臨床治療学実習Ⅰ(作業療法)および⑤臨床治療学実習Ⅱ(作業療法)の履修条件

専門科目の科目区分「作業療法治療学」のすべての授業科目および臨床評価学実習(作業療法)を修得していなければなりません。

4. 科目一覧

理学療法専攻の科目一覧

科目区分		授業科目の名称	授業形態	必要単位数	配当年次							
					1年次		2年次		3年次		4年次	
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
教養科目（計33単位）	導 入 基 礎	学びの技法	講	必修17単位＋選択5単位以上	必(1)							
		理解と表現	講		必(2)							
		社会貢献の方法と実践	講		必(1)							
		情報学	講		選(1)							
	人 間 の 理 解	心理学	講		必(2)							
		倫理学	講		選(1)							
		応用倫理学	講			必(1)						
		思想の歴史	講			選(1)						
		歴史学	講			選(1)						
	社 会 の 認 識	社会調査法	講		選(1)							
		現代の社会と人間	講				必(1)					
		北海道の医療と社会・経済	講			必(1)						
		文化人類学	講				選(1)					
	自 然 の 探 求	生命科学概論	講		必(1)							
		自然科学概論	講		必(1)							
		統計学	講		選(1)							
		生物学	講		選(1)							
		基礎生化学	講			必(2)						
		物理学	講			選(1)						
		スポーツ・レクリエーション学	講					選(1)				
	英 語 科 目	基礎英語	講		必(2)							
		英会話	講			選(2)						
		英語ライティング	講					選(2)				
		保健医学英語Ⅰ	講					必(2)				
		保健医学英語Ⅱ	講						選(2)			
専門基礎科目（計47単位）	基 礎 医 学	人体構造機能学Ⅰ（筋・骨関節系）	講	必修44単位＋選択1単位以上	必(3)							
		人体構造機能学Ⅰ（神経系）	講		必(2)							
		人体構造機能学Ⅰ（内臓・脈管系）	講			必(2)						
		人体構造機能学Ⅱ（筋・骨関節系）	演			必(1)						
		人体構造機能学Ⅱ（神経系）	演			必(1)						
		人体構造機能学Ⅱ（内臓・脈管系）	演				必(1)					
		人体構造機能学実習	実					必(3)				
		運動学	講			必(4)						
		運動学演習	演			必(3)						
		老年学	講				必(1)					
		人間発達学	講			必(1)						
	臨 床 医 学	精神障害基礎論	講				必(1)					
		薬理学概論	講					必(1)				
		医学概論	講				必(1)					
		リハビリテーション概論	講		必(1)							
		周術期医療基礎論	講				必(1)					
		内部障害基礎論	講				必(2)					
		運動器障害基礎論	講				必(3)					
		中枢神経障害基礎論	講				必(2)					
		発達障害基礎論	講				必(1)					
		医用画像解析学概論	講					必(1)				
		臨床心理学	講				必(2)					
		医療安全管理学	講						必(1)			
	保 健 医 療 福 祉 と シ ョ ン の 理 念	公衆衛生学	講								必(1)	
		福祉介護概論	講					選(1)				
		在宅リハビリテーション学	講					選(1)				
		言語聴覚療法概論	講					選(1)				
		健康増進障害予防概論	講			必(2)						
		健康増進障害予防演習Ⅰ（検査測定）	演					必(1)				
		健康増進障害予防演習Ⅱ（実践指導）	演									必(1)

令和2年度（2020年度）以降入学者

科目区分		授業科目の名称	授業形態	必要単位数	配当年次							
					1年次		2年次		3年次		4年次	
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
専門科目（計83単位）	基礎療理学	理学療法概論	講	選択79単位以上	選必(1)							
		日常生活活動学(理学療法)	講				選必(2)					
		物理療法学	講						選必(2)			
		義肢装具学（理学療法）	講						選必(2)			
	理学療法評価学	理学療法基礎評価学Ⅰ	講				選必(2)					
		理学療法基礎評価学Ⅰ演習	演				選必(1)					
		理学療法基礎評価学Ⅱ	講					選必(3)				
		日常生活活動評価学	講					選必(1)				
		日常生活活動評価学演習	演					選必(1)				
		神経障害理学療法学	講						選必(2)			
	理学療法治療学	神経障害理学療法学演習	演						選必(1)			
		神経障害理学療法学実習	実							選必(1)		
		運動器障害理学療法学	講						選必(2)			
		運動器障害理学療法学演習Ⅰ	演						選必(1)			
		運動器障害理学療法学演習Ⅱ	演							選必(1)		
		内部障害理学療法学	講						選必(2)			
		内部障害理学療法学演習Ⅰ	演						選必(1)			
		内部障害理学療法学演習Ⅱ	演							選必(1)		
		療理地域学	講							選必(2)		
		生活環境学（理学療法）	講							選必(2)		
	理学療法臨床実習	臨床見学セミナー（理学療法）	演		選必(1)							
		臨床見学実習（理学療法）	実		選必(1)							
		臨床評価学セミナー（理学療法）	演							選必(1)		
		臨床評価学実習（理学療法）	実							選必(4)		
		臨床治療学セミナーⅠ（理学療法）	演								選必(1)	
		臨床治療学実習Ⅰ（理学療法）	実								選必(8)	
		臨床治療学セミナーⅡ（理学療法）	演								選必(1)	
		臨床治療学実習Ⅱ（理学療法）	実								選必(8)	
	応用理学療法	ケーススタディー	講							選必(2)		
		理学療法研究法	講							選必(1)		
		理学療法研究法演習（卒業研究）	演									選必(4)
		理学療法管理学	講									選必(2)
		理学療法ゼミⅠ	講						選必(2)			
		理学療法ゼミⅡ	講									選必(4)
		スポーツ傷害理学療法学	講						選(1)			
		高齢者理学療法学	講						選必(1)			
		神経筋疾患理学療法学	講						選必(1)			
		神経障害理学療法学特論	講									選(2)
		運動器障害理学療法学特論	講									選(2)
		内部障害理学療法学特論	講									選(2)
		応用シナリオ	生活行為向上リハビリテーション論		講					選(2)		
	国際医療支援論		講									選(1)
	合計単位数					163	24	23	20	21	18	20

※授業形態 「講」：講義 「演」：演習 「実」：実験・実習
 ※配当年次 「必」：必修科目 「選必」：選択必修科目 「選」：選択科目

作業療法学専攻の科目一覧

科目区分		授業科目の名称	授業形態	必要単位数	配当年次							
					1年次		2年次		3年次		4年次	
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
教養科目（計33単位）	導入科目基礎	学びの技法	講	必修17単位＋選択5単位以上	必(1)							
		理解と表現	講		必(2)							
		社会貢献の方法と実践	講		必(1)							
		情報学	講		選(1)							
	人間の理解	心理学	講		必(2)							
		倫理学	講		選(1)							
		応用倫理学	講			必(1)						
		思想の歴史	講			選(1)						
		歴史学	講			選(1)						
	社会の認識	社会調査法	講		選(1)							
		現代の社会と人間	講				必(1)					
		北海道の医療と社会・経済	講			必(1)						
		文化人類学	講				選(1)					
	自然の探求	生命科学概論	講		必(1)							
		自然科学概論	講		必(1)							
		統計学	講		選(1)							
		生物学	講		選(1)							
		基礎生化学	講			必(2)						
		物理学	講			選(1)						
		スポーツ・レクリエーション学	講					選(1)				
	英語科目	基礎英語	講		必(2)							
		英会話	講			選(2)						
		英語ライティング	講					選(2)				
		保健医学英語Ⅰ	講					必(2)				
		保健医学英語Ⅱ	講						選(2)			
専門基礎科目（計47単位）	基礎医学	人体構造機能学Ⅰ（筋・骨関節系）	講	必修44単位＋選択1単位以上	必(3)							
		人体構造機能学Ⅰ（神経系）	講		必(2)							
		人体構造機能学Ⅰ（内臓・脈管系）	講			必(2)						
		人体構造機能学Ⅱ（筋・骨関節系）	演			必(1)						
		人体構造機能学Ⅱ（神経系）	演			必(1)						
		人体構造機能学Ⅱ（内臓・脈管系）	演				必(1)					
		人体構造機能学実習	実					必(3)				
		運動学	講			必(4)						
		運動学演習	演			必(3)						
		老年学	講				必(1)					
		人間発達学	講			必(1)						
		精神障害基礎論	講				必(1)					
	臨床医学	薬理学概論	講					必(1)				
		医学概論	講				必(1)					
		リハビリテーション概論	講		必(1)							
		周術期医療基礎論	講				必(1)					
		内部障害基礎論	講				必(2)					
		運動器障害基礎論	講				必(3)					
		中枢神経障害基礎論	講				必(2)					
		発達障害基礎論	講				必(1)					
		医用画像解析学概論	講					必(1)				
		臨床心理学	講				必(2)					
		医療安全管理学	講						必(1)			
	保健医療福祉とシヨンの理念	公衆衛生学	講								必(1)	
		福祉介護概論	講					選(1)				
		在宅リハビリテーション学	講					選(1)				
		言語聴覚療法概論	講					選(1)				
		健康増進障害予防概論	講			必(2)						
		健康増進障害予防演習Ⅰ（検査測定）	演					必(1)				
		健康増進障害予防演習Ⅱ（実践指導）	演								必(1)	

令和2年度（2020年度）以降入学者

科目区分		授業科目の名称	授業形態	必要単位数	配当年次									
					1年次		2年次		3年次		4年次			
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
専門科目（計80単位）	基礎作業療法	作業療法概論	講	選択75単位以上	選必(1)									
		作業学概論	講				選必(1)							
		作業分析学	演				選必(2)							
		日常生活活動学（作業療法）	講				選必(2)							
		日常生活活動学（作業療法）演習	演				選必(1)							
		義肢装具学（作業療法）	講				選必(1)							
		義肢装具学（作業療法）演習	演				選必(1)							
		社会生活行為学	講					選必(1)						
	作業療法評価学	作業療法評価学（身体・老年期障害）	講			選必(1)								
		作業療法評価学演習Ⅰ（身体・老年期障害）	演				選必(1)							
		作業療法評価学演習Ⅱ（身体・老年期・発達障害）	演					選必(1)						
		作業療法評価学（精神障害）	講					選必(1)						
		作業療法評価学演習Ⅲ（精神障害）	演					選必(1)						
		作業療法評価学（発達障害）	講					選必(1)						
		作業療法評価学（高次脳機能障害）	講					選必(1)						
		作業療法評価学演習Ⅳ（高次脳機能障害）	演					選必(1)						
	作業療法治療学	身体障害作業治療学	講						選必(2)					
		精神障害作業治療学	講							選必(2)				
		発達障害作業治療学	講							選必(2)				
		老年期障害作業治療学	講							選必(2)				
		高次脳機能障害作業治療学	講							選必(1)				
		総合事例演習	演							選必(2)				
		総合実技演習	演							選必(2)				
		療作地法業域	生活環境学（作業療法）		講					選必(2)				
	地域作業療法学		講						選必(2)					
	作業療法臨床実習	臨床見学セミナーⅠ（作業療法）	演		選(1)									
		臨床見学実習Ⅰ（作業療法）	実		選必(1)									
		臨床見学セミナーⅡ（作業療法）	演				選(1)							
		臨床見学実習Ⅱ（作業療法）	実				選必(1)							
		臨床評価学セミナー（作業療法）	演							選(1)				
		臨床評価学実習（作業療法）	実							選必(4)				
		臨床治療学セミナーⅠ（作業療法）	演								選(1)			
		臨床治療学実習Ⅰ（作業療法）	実								選必(8)			
		臨床治療学セミナーⅡ（作業療法）	演								選(1)			
		臨床治療学実習Ⅱ（作業療法）	実								選必(8)			
	応用作業療法	作業療法研究法	講							選必(1)				
		作業療法研究法演習（卒業研究）	演									選必(4)		
		作業療法管理学	講										選必(2)	
		作業療法特別セミナー	講										選(3)	
		特別支援教育概論	講										選(1)	
		箱づくり法	講										選(1)	
		身体・老年期障害作業治療学特論	講										選(1)	
		精神障害作業治療学特論	講										選(1)	
	シテハ応用ン	生活行為向上リハビリテーション論	講						選必(2)					
		国際医療支援論	講										選(1)	
			合計単位数			160	24	24	20	23	15	19	35	

※授業形態 「講」：講義 「演」：演習 「実」：実験・実習
 ※配当年次 「必」：必修科目 「選必」：選択必修科目 「選」：選択科目

5. 教育マップ

(1) 教養科目

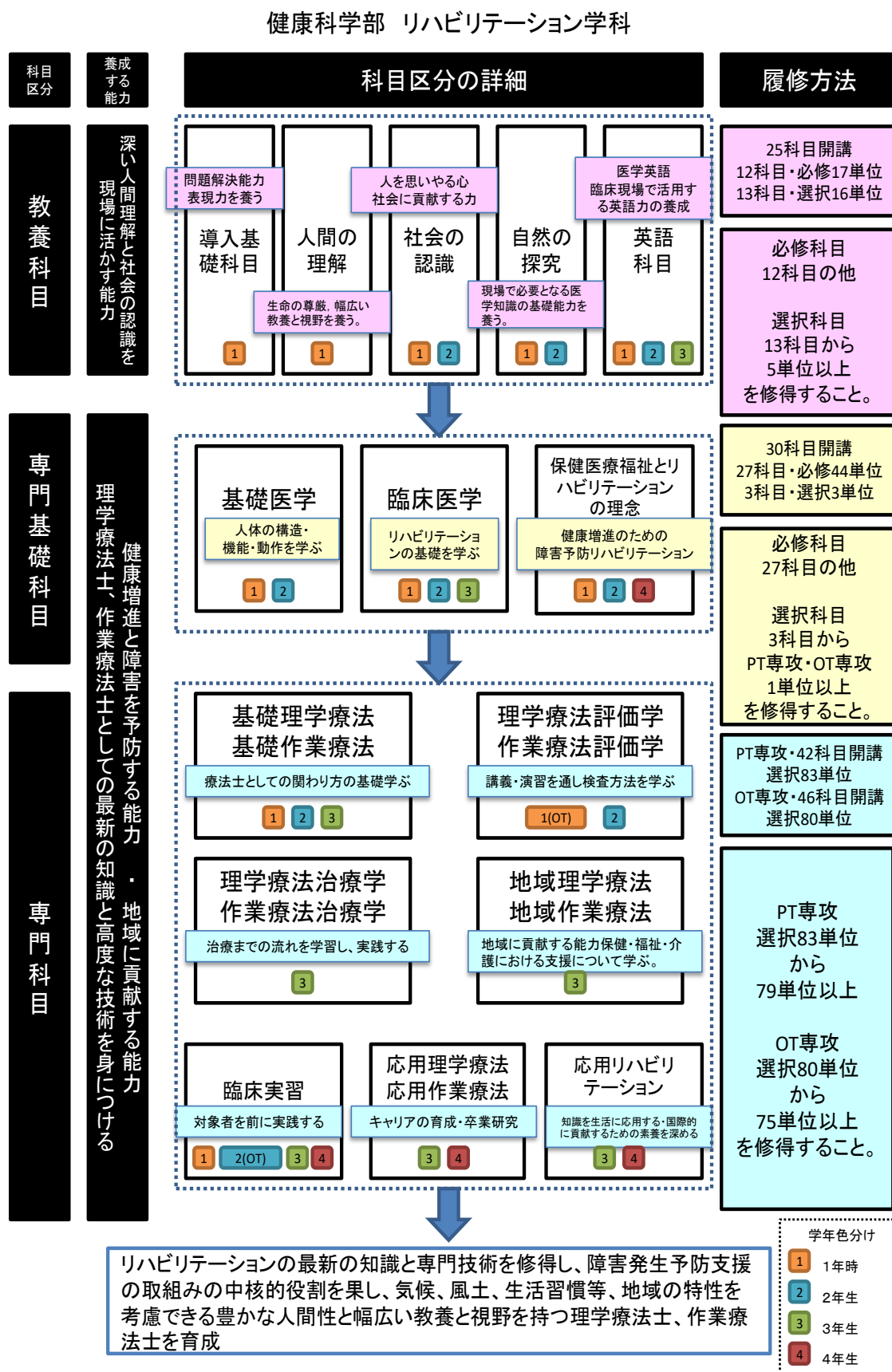
教養科目では、直接人を相手とする医療専門職に必須である豊かな人間性を培い、同時にリハビリテーションの知識と技術とが現代社会で果たす意味を学生が自覚できるようになることを目指しています。学生がリハビリテーション医療従事者としての使命感とやり甲斐とを、まず明確にしてほしいと願っています。具体的には、学習をはじめに当たってまず身につけておくべき態度と技術を教える「導入基礎科目」、そして人間・社会・自然に関する幅広い理解を得るために、「人間の理解」、「社会の認識」、「自然の探求」という科目区分を設けてあります。また、英語能力の多面的な修得のために、3年次まで多くの授業科目が開講されます。

(2) 専門基礎科目

専門基礎科目は、専門科目を学修する前に、その基礎となる事柄を修得します。「基礎医学」11科目、「臨床医学」12科目、「保健医療福祉とリハビリテーションの理念」7科目の3区分からなります。

(3) 専門科目

専門科目では、理学療法士、作業療法士になるために必須な専門的知識と技術を学修します。「基礎理学療法・基礎作業療法」、「理学療法評価学・作業療法評価学」、「理学療法治療学・作業療法治療学」、「地域理学療法・地域作業療法」、「理学療法臨床実習・作業療法臨床実習」、「応用理学療法・応用作業療法」、「応用リハビリテーション」の7つの科目区分からなり、理学療法学専攻42科目、作業療法学専攻46科目の授業科目があります。



【以下の6. 履修登録～11. 取得資格は、「令和元年度（2019年度）以前入学者」と「令和2年度（2020年度）以降入学者」と共通】

6. 履修登録

- (1) 履修登録は、学期ごとに所定の期間内で、各自マークシートにより登録してください。登録期間等の詳細については、掲示等で周知します。
- (2) 各年次に配当した授業科目は、原則としてその年次に履修してください。
- (3) 上級年次に配当している授業科目を下級年次の者は履修できません。ただし、上級年次の者が下級年次に配当している授業科目を履修することはできます。
- (4) すでに単位を修得した授業科目を、再度重複して履修することはできません。
- (5) 原則として、同一期の同一曜日、同一授業時間に2科目以上を履修登録することはできません。

7. 在学年限

8年を超えて在学することはできません。

8. 休学期間

- (1) 休学期間は、1年以内とします。ただし、特別の理由がある場合は、1年を限度として休学期間の延長を認めます。
- (2) 休学期間は、通算して4年を超えることはできません。
- (3) 休学期間は、前記7. の在学年限には算入しません。

9. 卒業認定方法

本学に4年以上在学して、前記2. の卒業要件（「令和元年度（2019年度）以前入学者」はP6、「令和2年度（2020年度）以降入学者」はP17参照）に従って所定の単位を授与された者について、教務委員会で審議の上、学長は教授会の意見を聴いて卒業を認定します。

10. 学位の授与

卒業を認定した者には、次の学位を授与します。

- (1) リハビリテーション学科 理学療法学専攻 学士（理学療法学）
- (2) リハビリテーション学科 作業療法学専攻 学士（作業療法学）

11. 取得資格

本学健康科学部リハビリテーション学科、理学療法学専攻および作業療法学専攻は、「理学療法士及び作業療法士法」第11条第1号及び第12条第1号に定める学校として指定されており、卒業後は、理学療法士又は作業療法士の国家試験を受験する資格が付与されます。

Ⅲ. 試験について

1. 試験の種類

試験には、定期試験、追試験および再試験があります。

(1) 定期試験

- ① 学期の一定期間内に試験を実施します。ただし、期間外（授業等）で行う場合には授業担当教員の指示に従ってください。
- ② 試験期間および試験時間割については、掲示でお知らせしますので確認してください。

(2) 追試験

- ① 病気、忌引、その他やむを得ない下記の理由で定期試験を欠席した学生は、所定の手続きを経て追試験を受験できます。
イ. 本人の病気又は怪我・・・医師の診断書が必要
ロ. 公共交通機関の遅延・・・遅延証明書が必要
ハ. 忌引き(三親等以内の親族(三親等は曾祖父母に限る)の死亡とし、法事は含めない)・・・忌引きを証明できる書類が必要
ニ. 災害(台風、水害、雪害、火災等)・・・被災証明書又は証明できるものが必要
ホ. その他、本学がやむを得ないと認めたもの。
- ② 追試験を受けようとする学生は、原則として、欠席した試験が行われた日の翌日から起算して3日以内に、その試験に欠席した理由を証明する書類を添付して、「追試験願」を学務課に提出してください。
- ③ 追試験の日程は、授業担当教員と協議の上、掲示でお知らせします。
- ④ 追試験の成績評価は、原則として定期試験と同様に評価されます。

(3) 再試験

- ① 再試験は、定期試験および追試験で60点未満の不合格となった場合、及び私事により定期試験を欠席した場合に、学生の願い出によって行われます。
- ② 再試験を希望する者は、成績評価の発表後、本学が指定した期間内に受験料（有料：1科目3,000円）を添えて「再試験願」を総務課に提出してください。
- ③ 再試験の日程は、掲示でお知らせします。
- ④ 再試験で合格した場合の成績評価は、C評価とします。

2. 受験資格

各授業科目の時間数の3分の2以上出席しなければ、試験を受けることはできません。授業時間数が8回の場合は3回、15回の場合では6回欠席すると受験はできません。授業の出欠管理は、必ず学生の自己責任で行ってください。

3. 受験上の注意

- (1) 試験に際しては、学生証を机上に提示してください。学生証を忘れた場合は、総務課で「仮学生証」の発行(有料：300円)を受けてください。学生証又は仮学生証がなければ受験できません。
- (2) 試験開始後30分以上遅刻した場合は、入室することができません。また、試験開始後30分以内は退出することができません。
- (3) 学生証、時計および筆記具以外のものを机上に置くことはできません。これ以外の所持品は（音の出る機器は電源を切ったうえで）鞆の中に入れて座席の下に置いてください。
- (4) 携帯電話等の電子機器を時計代わりに机上に置くことはできません。
- (5) 受験中は監督者の指示に従ってください。指示に従わないときは退出を命じます。
- (6) 受験中は静粛を保ち、退出後も他の受験者の迷惑にならないよう静かに行動してください。
- (7) 配付された答案用紙等は、回収しない問題用紙を除き、すべて提出しなければなりません。

4. 不正行為が発覚した場合

- (1) 試験監督者は、学生の受験を直ちに停止させ、当該不正行為の事実関係を確認し、問題用紙、答案用紙及び証拠品を没収します。
- (2) 当該試験及び当該期間の全科目を「無効」とし、さらに再試験の受験も不可とします。
- (3) 学生の懲戒手続きに関する内規で定める懲戒諮問委員会で、懲戒内容を審議します。

5. 試験における不正行為

- (1) 他の者が受験者に代わって受験又は受験者が他の者を代わりに受験させること。
- (2) カンニングペーパー又はこれに類するものを使用すること。
- (3) 持ち込み不可とされているものを使用すること。
- (4) 所持品、机上、身体等にメモを書き込んでおくこと。
- (5) 答案を相互に交換し、答案を作成すること。
- (6) 他の受験者の答案を見たり又は他の受験者に答案を見せたりすること。
- (7) 携帯電話等の通信機器を利用して、試験時間中に交信すること。また、それらを目の届く場所に置くこと。
- (8) 監督者が明らかに不正行為に類すると判断する行為を受験者が行うこと。
- (9) その他、前各号に類すると認める行為。
- (10) 試験には、定期試験のほか、小テストや中間試験等も含む。

6. レポート等における不正行為

- (1) 他人の著作物を盗用すること。
- (2) 実験や調査結果等のデータを捏造又は偽造すること。
- (3) 他人のレポート並びに著作物を，自分のものとして提出すること。
- (4) 他人のレポート並びに著作物から，適切な出典引用処理を行わずに流用すること。
- (5) 他人と同一の文書表現でレポート等を作成し，提出すること。
- (6) 前各号に掲げる行為を幫助すること。
- (7) その他，レポート等の公正な成績評価を妨げると認める行為。

Ⅳ. 成績評価について

1. 成績評価の方法

- (1) 授業科目の成績は、それぞれの科目の評価方法により判定します。
- (2) 成績の評価は、「S」～「D」に区分し、「D」を不合格とします。
- (3) 授業科目の単位は、当該科目が終講し、次の表の学習成果の質に応じて評価した上で、「S」から「C」の合格判定を得たときに認定されます。

評価	学修成果の質
S	授業科目の到達目標のすべての面で <u>秀逸</u> な学修成果をあげた。
A	授業科目の到達目標のすべての面で <u>優秀</u> な学修成果をあげた。
B	授業科目の到達目標のすべての面で <u>良好</u> な学修成果をあげた。
C	授業科目の到達目標のほとんどの面で合格となる最低限の学修成果であったが、良好な面がいくつかあった。
D	授業科目の到達目標のほとんどまたはすべての面で合格となる最低限の学修成果はなかった。

2. GPA制度

本学では、成績を数値化することで、学習効果を客観的に把握するために、GPA（Grade Point Average）制度を導入しています。修得単位数という「量」だけではなく、学習状況の「質」を判断できる指標を提供することにより、学生の学習意欲の向上や学習の計画などの自己管理に資することを目的としています。

詳しくはホームページの「在学生の方」→「学生生活について」→「GPA制度の導入について」をご覧ください。

評価区分と得た成績の点数に対するGP（グレード・ポイント）は次のとおりです。

点 数	評 価	判 定	G P
100点～90点	S	合格	4
89点～80点	A	合格	3
79点～70点	B	合格	2
69点～60点	C	合格	1
59点以下	D	不合格	0

※ 再試験で合格の評価は、点数にかかわらずすべて「C」評価とします。

3. GPAの対象外

- (1) 編入学又は転入学における単位認定科目
- (2) 本学入学前に修得した単位認定科目
- (3) 他大学等との単位互換等で修得した科目
- (4) 臨床見学実習(理学療法), 臨床評価学実習(理学療法), 臨床治療学実習Ⅰ(理学療法), 臨床治療学実習Ⅱ(理学療法), 臨床見学実習Ⅰ(作業療法), 臨床見学実習Ⅱ(作業療法), 臨床評価学実習(作業療法), 臨床治療学実習Ⅰ(作業療法), 臨床治療学実習Ⅱ(作業療法)

4. GPAの算出方法

(評価を受けた授業科目のGP×その科目の単位数)の合計÷評価を受けた科目の単位数の合計

※ GPAの最高値は4.00となります。

5. GPAの算出例

授業科目	評 価	GP (a)	単位数(b)	a×b
〇〇学	B	2	2	4
□□概論	S	4	2	8
△△基礎論	A	3	1	3
◎◎演習	C	1	1	1
◇◇学(選択)	D	0	1	0
計			7	16

分子：(評価を受けた授業科目のGP (a) ×その科目の単位数 (b)) の合計＝16

分母：評価を受けた科目の単位数の合計＝7

GPA＝16÷7＝2.29 (小数点第3位を四捨五入)

※ S評価が多いとGPAは高くなり、逆にC評価が多くなるとGPAは低くなります。特にD評価があるとGPAに大きな影響があることに注意してください。

6. 成績の通知

各期終了後、本人には授業科目別の成績を掲示するほか、学費負担者には、評価区分、学期GPA及び通算GPAを記載した「学業成績記録」を郵送で通知します。

V. 科目の概要について

1. 教養科目（理学療法学専攻、作業療法学専攻共通）

学びの技法

学びの本質と学びの技法について講義する。高校までの「勉強」と「学び」の違いについて理解し、主体的な学びが実践できるようになるための「技法」の修得を目標とする。技法の修得にあたっては、問題・課題の本質をまず明確にし、それに対する従来の解決法を批判的に理解しつつ、自ら能動的・創造的に思考し、有効な対処が可能な能動的能力を身につける。

理解と表現

教育と研究を遂行するには、適切なコミュニケーション能力を必要とする。単なる情報や知識のやりとりを超えた対話状況では、他者の話を聴き取る力や、共感的な対人関係の維持および関係構築能力が不可欠である。本講義では、広い意味でのコミュニケーション能力を身につけることを目標とする。

社会貢献の方法と実践

「社会的障壁」の除去と「合理的配慮」の普及を謳う障害者権利条約が 2007 年に批准され、その後の制度改革はわが国の医療・福祉に大きなインパクトを与えています。今日、「人の幸せ」を社会的な脈絡でとらえ、他人の「生きづらさ」を気にかける地域づくりが要請されていますが、ここに貫かれるのが「社会連帯」と「社会貢献」の思想と行動であり、専門職同士や専門職と地域社会とのネットワークの形成です。「全人間的復権」をめざすリハビリテーション専門職にとって、人の生きることへの喜びと感謝を受けとめて支援する「価値と態度」を醸成することはとても大切です。本講義では、以上の学びとともに、具体的なボランティア活動体験をととして、実践に際して必要な留意点を学ぶとともに、社会貢献活動を促進調整するコーディネートの実際を学びます。

情報学

情報学はコンピュータスキルの基礎を修得し、学習に際して自在に活用できるようになることを目標とする。具体的には、コンピュータの仕組みやオペレーションシステムの基本を学び、ワード、エクセル、パワーポイントの基本操作、および電子メールやインターネットの利用法、文献検索の方法などを実習的に学習する。さらに、セキュリティや情報倫理について理解を深める。

心理学

「心の科学」としての心理学の歴史はブントが大学構内に心理学実験室を設置した 1897 年に始まるが、心への探求は古く紀元前 300 年頃のヒッポクラテスの体液説に遡る。19 世紀は実験と観察が中心であったが、近年では、生活の場における人間の心理的理解を深め、臨床の場で諸々の心理学の知見を生かしていく試みが増えている。本講義では、リハビリテーション心理臨床の基礎となるような「基礎心理学」について学ぶ。様々な心理学の知見を概観し、心理学の視点や考え方を理解するとともに、臨床的応用の可能性について探る。随所に質疑応答やアクティブラーニングを適宜取り入れ、学生主体の双方向的な講義を展開する。視聴覚教材を多用する。

倫理学

価値観の多様化が進んだ今日、「ものごとの善し悪し」をめぐる判断の違いは、インターネットの発達も相まって、時に人と人の間に緊張や対立を生み、さらには対話を不可能なものにさえしてしまう。このような状況の中で、倫理学という学問は、いかにしてその種の判断をめぐる対話を可能にし、価値観を異にする人々の間に橋を架けることができるのだろうか。この授業では、現代社会において特に見解の分かれる問題のいくつかを取り上げ、学生の皆さんと意見交換をしながら（具体的な方法は受講者の人数や使用可能な機材等を確認のうえ、判断）、いま、様々な問題を倫理的に問い直すことの意味を明らかにしたい。

応用倫理学

倫理とは物事の判断には大変重要なものとなっている。我々は日常の様々な状況下で倫理的な判断を求められることがある。本授業では様々な情報から物事をどのようにとらえ、判断していくかということ学習していく。

思想の歴史

本講義では本学の教育特徴を活かして、「リハビリテーション医療の思想および実践の歴史」から取り出され教えられる数々の人間学的特徴にふれ、支援の糸を手繰り寄せる。医療者と患者という二分的で垂直的な立場から、医療の場での役割の違いをおさえながら、人間として水平的な立場からの接近が求められる時代となった。医療思想の歴史を背景として、臨床実習体験から学んだことを講義資料として、現代に生かす医療思想についてふれる。

歴史学

現代世界とそこに生きる我々の来歴を知り、人類史のベクトルがどのような将来を指し示しているかを知ることが、現在に生きるわれわれの自己理解を深め、かつ今後の社会と文化の方向性を見極めながらいかに人生を構築するべきかを考える上で、決定的な重要性を持つ。本学で教育する歴史学は、従来しばしば見られたような歴史の細目を教える暗記型の歴史学ではなく、上記の目的を強く意識し、かつそれに即したトピックを厳選して現代に生きる人類としての自己理解を深める内容とする。かつ同時に、自らが生きる場である地域社会にも目配りができるように、北海道の歴史をも内容に含める。

社会調査法

計量社会学を展開していくのに必要な①社会学的な思考法、②社会調査の方法論、③統計学の知識を学び、研究テーマのみつけ方から仮説を確かめるための方法の吟味、そして実際の社会調査とデータ分析を通じた結論の導き方のプロセスを教授する。

現代の社会と人間

「現代」の「社会」と「人間」のかかわりについて学ぶ。「社会」とは何か、という問いに対して多様な接近があることを前提にして、近代から現代へどのように社会が推移してきたのかを「自由」と「平等」という概念に向き合い、共に考える。そのうえで現代社会が抱える問題について考える。

北海道の医療と社会・経済

「医療」に関わるテーマについて、社会科学からの視座を伝える。特に「サービス業としての医療」の視点から北海道の地域特性と医療専門職の役割について具体的問題を提示して伝える。

文化人類学

文化人類学とはフィールドワークから得られる知見にもとづいて、様々な人間現象をとらえる方法的学問である。本講義では世界のいろいろな現象や「伝統」や「文化」を参照し、それらの比較・これまでなされてきた分析や解釈の検証をとおして、われわれの常識や価値観、世界の在りかたをあらためて見直す。異なる文化あるいは他者と共生するとき・対峙するときの問題はいかなるものか、グローバルスタンダードとは何か、文化差はなぜ生じるかなどについて考察する。

生命科学概論

生命科学は人間を中心とした生物学であり、生命に関する学問分野である。人間が生きていく上で、必要な酸素や栄養の運搬、老廃物、二酸化炭素の回収を行う血液や、生命活動を行うために必要な筋肉の概要、また、活動するための骨格筋の筋収縮メカニズム、外来からの刺激を受け取る感覚器系のメカニズムについても学ぶ。

自然科学概論

医療・健康科学・リハビリテーションを学ぶ上で、自然科学の知識や考え方は必須のものである。本講義では、医療人としてこれからの時代を担うために必要な自然科学の知識、特に物理学・生物学・化学

と人体の構造・機能・運動との関係を広く概観する。高等学校で未履修の学生が理解出来るよう、基礎的な事項から学習していく。本講義を通して、生理学・運動学等の専門基礎分野を学ぶ上で必要な基本的自然科学の事項を理解し、説明できる能力を養う。

統計学

様々な資料やデータを整理し、検定や推定を用いて分析を行い、結論を得ることは統計学の重要な役割です。自然科学や社会科学など他の学問領域でも多く活用されており、データを扱う学問を修める者には必要性の高い学問です。本講義は、多々ある統計の手法のなかでも、特に見聞きする機会が多く、さらに使用頻度の高い基本的な知識と手法について学習し、データ分析の具体的手法を学ぶ。

生物学

精神疾患や発達障害、また運動器の障害を扱うセラピストになる上で、基本となる生命（人体）の基本構造とはたらきについて神経系を中心に学習する。

基礎生化学

生化学は、生命現象を「物質」や「分子」のレベルから理解し、核酸やタンパク質はじめ生命を構成する分子の機能や構造を明らかにする学問である。健康と病気を正しく理解するには分子レベルで生命現象や生命体を構成、維持する物質を化学的な視点で理解することが必要です。本講義では必要となる「基礎的な生化学＝生体分子の構造と生体内における変化＝代謝」を中心に学習する。

物理学

身の回りにある自然現象を理解して機器の仕組みや原理を知るためには、物理学的な考え方が必要となる。本講義は、身近にある物質や現象を取り上げ、物理学的な見方や考え方の基礎を学ぶ。具体的には、力と運動、圧と流体、熱現象や電磁

気現象などを紹介し、その原理や基礎となる用語、また基本的な法則などを学ぶ。さらに、応用分野として、生体の機能や動作を物理的に解釈かつ解析する能力を習得する。

スポーツ・レクリエーション学

スポーツ・レクリエーションは体を動かすという生来人間が持っている欲求に応えるだけでなく、爽快感、達成感、他者との連帯感等の精神的な充足、健康の保持増進、青少年の人間形成に資するなど、心身両面に働きかけることができると考えられる。軽～中強度の運動が中高齢者の認知機能やメンタルヘルスに好影響を与えることや子供の運動習慣と学業成績に関連があることなど、スポーツやレクリエーションを通じて体力以外に及ぼす効果も述べながらそれら活動の意義と現状の社会環境・機会等がどのようにあるかを学ぶ。

基礎英語

コミュニケーションは、様々な形で行われる。「基礎英語」では、英語の4技能（聞く、話す、読む、書く）を関連付けて、英語の基礎的な力をバランスよく鍛えながら、PT・OTの各専門分野の学習の上で習得しておくべき基礎的専門用語の拡充と定着を図る。将来、臨床現場で働くことを意識しながら、英語の主体的な学習方法に習熟させ、将来英語の文献を読む際に活用するための土台を築くことを目指す。また、専門性を磨き続け、信頼されるPT・OTになるために、自律した学習者を育成することを目指す。

英会話

コミュニケーションでは、相手の話をよく聴き、自分の意見を分かり易く伝えることが重要である。よき対話は参加者をつなげ、活力を生み、新たな自他の発見や成長の機会を与えてくれる。本講義では、今やLingua Franca（世界の共通語）となった英語を様々な場面や目的の中で実際に使いながら、各場面や目的に合った多様なコミュニケーション方法を学び、習得していくことを目指す。比較的短く即

興的な会話や身の回りのトピックから、徐々に、ディスカッション(ディベート)やグローバルなトピックについての主張といった、少し手順を踏んだ長めのリスニング・スピーキングを扱っていく。多彩な練習を通して、より自然で的確な表現の英語で、自分の意見を相手に分かり易く伝える力を養成することを目指す。

英語ライティング

ライティングは自己表現の 1 つの方法であり、また、自分を振り返る力にもなる。ライティングはまた、メッセージを届ける相手や、それを書く目的によって、構成や表現方法が異なる。講座では、比較的短く即興的なライティングと、手順を踏んでのライティング(ブレインストーミング、初稿、編集、最終稿)の 2 種類を扱う。多彩な練習を通して、より自然で、的確かつ簡潔な表現の文章で、まとまった考えを書き表す力を養成することを目指す。

保健医学英語Ⅰ

理学療法士・作業療法士として臨床現場で働く際に、根拠のある選択をし、より良いケアを提供するために、英語医療論文を読む力は必要不可欠です。本講座では、1 年次の基礎英語で培った英語力の土台をさらに確かなものにし、皆さんが将来現場で専門性を開発し、より良いセラピストとして成長し続けられるよう、英語力のさらなる伸長を目指します。人体の構造についての学習、リハビリを必要とする疾患の学習へと進め、後半はいよいよ自分達で選んだトピックについてリサーチし、発表をしていきます。さらに、英論文の概要をまとめたアブストラクトの構成を学んだ後、実際の研究論文のアブストラクトの読解に取り組み、発表するという学習体験もしていきます。

保健医学英語Ⅱ

将来、臨床の現場で、根拠に基づいたケアを行い、専門性を磨き続け、患者や家族を支えるセラピストとして成長し続けるために、医療研究論文を的確に読み取る力を身につけることは必須条件である。保

健医学英語Ⅱでは、「保健医学英語Ⅰ」で学んだことをさらにもう一段進めて、臨床現場で実際に扱われている英語論文を複数取り上げ、医療研究論文のフォーマットに慣れさせるとともに、Abstract の Introduction, Methods, Results, Discussion を的確に読み取る力の養成を目指す。人間力を備えた PT・OT が、それぞれの専門分野で自律・協同して最新の研究や療法を学び、その専門性を磨きながら、広く国内外のプロフェッショナルと交流し、患者や家族を支え、社会に貢献する人材となることを目標とする。

2. 専門基礎科目(理学療法学専攻、作業療法学専攻共通)

人体構造機能学Ⅰ(筋・骨関節系)

骨および骨格筋の構造と機能

人体構造機能学Ⅰ(神経系)

末梢神経系および中枢神経の構造と機能

人体構造機能学Ⅰ(内臓・脈管系)

医学系専門職として理学療法と作業療法を学ぶ上で基礎となる、生命の維持に非常に重要な働きをもつ呼吸器と循環器や、消化器、泌尿器の構造と機能についての知識とその役割を学び、生命が恒常性を維持する仕組みの一端を知る。本科目では生体内部の構造と働きについて学習し、生体内で起こる生理学的反応への考察力を高めることを目的とする。さらに運動における呼吸循環系の役割に対する理解を深めることも目的とする。

人体構造機能学Ⅱ(筋・骨関節系)

骨格筋や関節の構造(解剖)と機能(生理)をについて学び、実際に触診や関節運動を体験する。また、触診で得た知識を形態計測という検査法を用いて体験する。

人体構造機能学Ⅱ(神経系)

中枢神経・感覚器・内分泌系の構造と機能

人体構造機能学Ⅱ(内臓・脈管系)

「人体構造機能学Ⅰ(内臓・脈管系)」で学習した基礎的な知識を基に、生命が恒常性を維持する仕組みを更に深く理解しイメージ体験することを目的とする。本科目では生体内部の構造と働きについて、特に呼吸循環器系について、心電図計測や呼吸機能検査、血圧・脈拍・呼吸数などのバイタルサイン測定など、学生同士での演習を通して、各種バイタルサインの意義や理論的考察、生命の恒常性の理解を深め、知的探究心を醸成する。

人体構造機能学実習

人体構造機能学ⅠやⅡで学習した骨・関節・筋系や神経系や内臓脈管系に関する解剖や機能を中心とした知識をもとに、人体に直接手を触れ、観察することで、その構造を三次元的にイメージし、基礎的な知識をより確実に習得し、更に科学的な基礎能力を身につけることを学習目標とする。特別な機会である本実習を通じて、生命の尊厳および医療専門職としての使命を自覚し、真摯な姿勢で学ぶことが重要である。

運動学

「人体構造機能学(筋・骨関節系)」で学習した知識に加え、生体力学的観点から、人間の身体運動に関する基礎を学ぶ。筋や骨、関節構成体の構造と、モーメントやテコの観点から身体活動がいかに効率良く、合理的なシステムに基づいて行われているか理解を深める。また運動学的分析の手法を学び、人間の動作を客観的に分析できることを目指す。さらに、姿勢制御や運動学習といった神経生理学的な観点からも、運動がどのように行われ、学習されているのか、その基礎を学ぶ。

運動学演習

骨、関節、神経、筋機能などの基礎的な知識を基に、ヒトの各種姿勢および歩行、起立、起居などの

基本動作の理念型を理解し、様々な運動・動作・活動に対して観察・分析の仕方を学生同士での演習を通して学習する。更には、運動や動作の観察から人体の機能や構造に対する理解を深める。また、運動による各臓器・器官の反応(生体反応)、高齢者や個々の疾患に対する姿勢や動作の特徴についても理解を深め、運動機能の回復・予防などといった応用的知識を身につける。

老年学

加齢に伴う生理的かつ精神心理的な変化を学び、高齢者を取り巻く社会構造や各種制度に加え、運動および生活能力の向上や高齢者の幸福な自分らしい生活の医学的な対応について理解する。

人間発達学

胎生期から成人に至るまで、人間の成長は人間の進化の縮図とも言われる。人間の成長における発達段階を理解することは、原始的な生体反応から成長し完成された生体活動に至るまでの過程や一つ一つの現象のメカニズムを学習することである。様々な疾患によってもたらされる障害の克服のために、人間の発達段階を理解し、それを利用して理学療法・作業療法を展開させる場面も多い。人間の発達を系統発生と個体発生の両面から検討する。人類の起源と進化の問題にふれ、人間の身体の形態的特徴と行動様式について調べる。次に、個体発生の視点から、ヒト新生児の特異性と人間の子どもの成長期の特徴に着目し、人間の発達特性とその意義について学習する。

精神障害基礎論

近年患者数が増加し「5大疾病」に加えられることになった精神疾患ならびにその障害の知識は国民の健康へのアプローチに際して理解が急務で、かつ重要度の高いものである。近年は気分障害や統合失調症の生活障害と当事者の予防・精神科リハビリテーションへの注目も集まり体系的な学びが必要であることから、本講義では各種の症候学、症状学など、対象者理解につながる基本的な知識と、役立

つ支援につながる実例的なポイントを学習する。

薬理学概論

薬理作用を理解するため生物学的な基礎知識の習得に重点を置き、分子、細胞、個体レベルで薬理作用のメカニズムを理解し、生体内における薬物の吸収、分布、代謝、排泄の薬理動態を学ぶ。具体的には、リハビリテーション対象者に投与されている身近な薬物の効果、副作用を習得する。

医学概論

医学・医療の歴史的経緯を学ぶことにより、現代の医学・医療の在り方を見つめ、その中での理学療法・作業療法の位置づけと役割に関する理解を深める。また、これからの医学・医療に求められるものや進むべき方向性を常に考える動機を醸成する。さらに、チーム医療を推進するため、日本の医療の実情に即した他職種との協働・連携の在り方などについても学習する。そして、チーム医療におけるリハビリテーションの位置づけと役割について理解を深め、医療チームの一員として治療に参加する基礎を培う。

リハビリテーション概論

リハビリテーションの歴史、基本概念、基本理念と自立支援、就労支援を理解し、リハビリテーションに関わる医療者によるチーム医療を理解する。また、廃用症候群や介護予防を理解し、その予防法に関して理解する。

周術期医療基礎論

近年、周術期医療におけるリハビリテーションの必要性が高まっている。本科目では周術期医療におけるチーム医療ならびに代表的な疾患における周術期医療について学び、リハビリテーション職種としての周術期医療の役割に対する理解を深めることを目的とする。

内部障害基礎論

心・肺・腎といったリハビリテーションでかわ

ることが多い内科疾患全般について、原因、病態を学び、その発生機序および過程を学習する。またそれぞれの疾患における、診断基準、理学的検査、生理検査、臨床症状について学ぶ。さらに内科疾患による障害像を理解し、各疾患の治療ならびにその中におけるリハビリテーションの基礎的理解を深める。

運動器障害基礎論

整形外科領域における代表的な疾患の病態、診断、治療について解説する。また、整形外科疾患と理学療法士および作業療法士の関わりについて解説する。

中枢神経障害基礎論

中枢神経を対象として、各神経疾患における特異的な主要症候、補助検査などについて解説する。さらに、リハビリテーション(理学療法、作業療法)の対象となる、日常臨床で遭遇する可能性の高い神経疾患(脳血管障害、パーキンソン病、小脳系疾患、認知症)を中心に、その病因、病態、診断、治療について学習し各疾患への理解を深めることを目的とする。

発達障害基礎論

発達期に生じた障害を持つ小児対して、臨床場面でリハビリテーションを行うために、小児期の代表的疾患の病態を理解しリハビリテーションに応用でき、発達障害の概念、視点を理解する。また、障害を乗り越えて社会への適応を図ろうとする対象児を支援する上で、医学的視点のみならず、心理、社会、教育的視点も理解して幅広い視野を養う。

医用画像解析学概論

医用画像は特に工学技術の進歩によって、より鮮明にリアリティが高く視覚的に捉えることができるようになり、リハビリテーションの障害診断や治療効果判定などにも広く用いられている各種撮像法の基本原理と画像診断の理論を学ぶ。各論では理学療法、作業療法で扱う代表的疾患の画像を供

覧するが、画像に関する知識は、理学療法士、作業療法士として患者の病態を把握し、治療プログラムを作成する上で重要な基礎となる。また、医師など他の医療スタッフと共通の認識を持ち、コミュニケーションを図る上でも必要な知識である。

臨床心理学

過去心の深層に人はどのように関わってきたのか。臨床心理学研究法、人格理論、心理査定、心理的援助に関わる倫理事項を学んだ後、心理療法に焦点を当て、精神分析、分析心理学、人間主義的アプローチ、認知行動的アプローチ、家族療法等の実際を講義および体験を介在させ展開する。統合失調症、うつ、自閉症、知的障害、脳外傷、脳血管障害、認知症等リハビリテーションに関わる事例を絡め、心の援助について受講生と共に考え、人間そのものについての理解を深めていく。視聴覚素材を多用し、可能な限り当事者の生の声を聴く。人間性、生き方等を重視し、現状把握と援助者の課題について探求する。

医療安全管理学

人の命を扱う医療現場においては、患者ならびに医療従事者が有害事象を起こさない、また遭わないようにするための対策が常に求められている。医療機器の危険性や特徴を理解し、安全な取り扱いを身に付けることは医療人にとって必須条件となる。本講義では、医療機器の取扱いと安全管理、医療現場での安全管理体制の構築と安全環境を確保する心構え、さらに感染防止や医療ガスの取扱いなどを具体例にそって習得する。

公衆衛生学

疾病の発生要因を社会との関連から追及し、その予防対策をたてる公衆衛生学について理解することを目的とする。具体的には、公衆衛生学の定義、衛生行政、公衆衛生の主要指標である人口動態や生命表などの見方を理解し、労働衛生、生活環境、地球環境の問題について理解する。また、健康リスク要因、疫学研究的意義、リスクの測定、各種の疾病

の発生要因とその予防対策などについて理解することを目的とする。

福祉介護概論

高齢者ケアをめぐる保健・医療・福祉を統合した介護保険制度の創設と発展の取り組みを知り、併せてその過程で「介護福祉」と「社会福祉援助」の専門性を確立してきた経過を理解します。また、リハビリテーションをふくむ高齢者・障がい者の医療・福祉サービスの現状を知り、ケアマネジメントの実施による高齢者・障がい者の自立を支援し、地域包括ケアシステムの実現をめざす保健・医療・福祉の連携についての理解を深める。

在宅リハビリテーション学

在宅リハビリテーションにおける社会保障制度、リハビリテーション技術、家族介護者の健康支援等について学習する。活動や参加の視点を重視した生活期のリハビリテーションおよびマネジメントについて理解を深める。長く在宅生活を継続するための障害予防や健康増進の考え方も学ぶ。また、他の専門職との連携、協働についての理解を深める。

言語聴覚療法概論

言語聴覚療法の対象となる様々な障害について、その定義や分類を理解する。また、成人および小児の言語聴覚障害の特性を理解し、評価、治療、指導や対応について学ぶ。広く、コミュニケーションにかかる障害であるため、ヒトとのコミュニケーションの成り立ちについても考える。さらに、特に連携が求められる摂食・嚥下障害についての基礎知識を学ぶ。

健康増進障害予防概論

リハビリテーションの概念である医学的、社会科学的側面を踏まえて、健康増進、障害予防、介護予防に関して、安全・管理・運営とその予防に関して理解する。

健康増進障害予防演習Ⅰ(検査測定)

健康増進予防概論および理学療法評価・作業療法評価学で学んだ知識を基に、健康教室での対象者の評価実施やエクササイズの実際も見て、評価結果を吟味出来るように演習する。

健康増進障害予防演習Ⅱ(実践指導)

「健康増進障害予防概論」および「健康増進障害予防演習Ⅰ」で学んだ知識・技術を基礎として、理学療法学、作業療法学、健康増進科学等の各分野における最新の知見を集約し、健康増進と障害予防のための実際のヘルスプロモーションに向けた介入計画の立案、指導、環境調整について学び知識を統合する。

3. 専門科目（理学療法学専攻）

理学療法概論

1 年次に理学療法を概観し、理学療法の定義、歴史、評価－治療体系、対象、主な背景理論、主な治療手段、理学療法教育の変遷などについて学習する。特に、綿密な評価を通じて抽出された問題点に対する理学療法の適応とその実際の方法を理解する。さらに医学的リハビリテーションにおける位置づけ、さらには治療（身体医学）としての理学療法の役割について理解する。

日常生活活動学(理学療法)

本科目では、日常生活活動（動作）の基礎基本事項を学び、人間が豊かな生活を送る上で欠くことのできない一連の生活活動を理解する。具体的には、理学療法の主たる目的である基本動作能力の改善を中心に、日常生活動作全般について学習し、問題解決のための的確な観察力および分析力を養う。また、各種の疾患による生活動作障がい特性を理解するとともに、それに対応する訓練法、指導法、福祉用具や各種支援機器の活用について学習して、生活動作能力の向上を通じて対象者の充実した地域生活に貢献する能力を養う。

物理療法学

物理療法は熱や光線、電気などの物理的エネルギーを痛みの緩和、循環機能の改善などを目的に作用させる治療方法である。「自然科学概論」で学んだ幅広い教養をもとに、物理的エネルギーが生体へ及ぼす臨床的效果について理解する。

義肢装具学(理学療法)

義肢および装具に関する基礎知識について学習し、切断の理学療法および装具療法について理解し、義肢に関しては断端訓練や義肢装着訓練等、装具に関しては適合判定や装具使用での動作訓練が実施できることを目的とする。具体的には義肢装具の定義、目的、種類、構造、適合判定、断端管理、義肢装具での動作訓練を学び、義肢装具における理学療法の役割を理解する。

理学療法基礎評価学Ⅰ

障害像の把握、治療方針の立案および患者の予後予測を行なう上で重要な評価法の中でも、臨床上、評価頻度の高い関節可動域測定と徒手筋力検査法について学習し、科学的な観察力および思考力を身に付けるための基礎とする。具体的には、評価の過程および評価の全体の流れを把握し、四肢・体幹全ての関節の関節可動域および筋力の測定方法について学習し、制限因子や代償動作、日常生活動作との関連について理解を深める。

理学療法基礎評価学Ⅰ演習

「理学療法基礎評価学Ⅰ」で学習したことを踏まえ、四肢・体幹全ての関節の関節可動域測定および徒手筋力検査法に基づく筋力測定の評価技術を身に付けることを目的とする。具体的には、教員によるデモンストレーション、学生同士による演習方式で実施し、「理学療法基礎評価学Ⅰ」で学んだ全ての関節可動域測定および徒手筋力検査法について適切かつ正確な測定が出来るように、実践を通した学習を行い、臨床の現場で利用できる測定技術の基礎を身に付ける。

理学療法基礎評価学Ⅱ

心身機能・構造に関する検査法・測定法を実技も交えて学習し、理学療法における問題解決を幅広い視野にて展開する力を身に付けることを目的とする。具体的には、体力測定、感覚検査、反射検査、片麻痺機能検査、協調性検査、運動発達検査、筋緊張検査、バランス検査、整形外科検査、疼痛検査、脳神経検査、動作分析などについて、各検査の意義・目的を理解し、適切で正確な検査・測定および得られたデータの解釈について学習する。

日常生活活動評価学

本科目では、「日常生活活動学（理学療法）」で学んだことを基に、ADL 評価バッテリーや動作分析方法について学習する。対象者の有する動作能力および問題点を客観的に測定し、分析する能力を養う。

日常生活活動評価学演習

本科目では、「日常生活活動学（理学療法）」および「日常生活活動評価学」で学んだことを基に、3種の模擬障がい体験演習を通し、実際の日常生活活動や評価につながる視点や考え方を学習する。また、適切な介助法や指導法、福祉用具や各種支援機器の活用方法を学習して、対象者の持つ生活上の問題を具体的に解決できる能力を養う。

神経障害理学療法学

脳卒中などの脳血管障害、および脳性麻痺を中心とした発達障害児の病態生理を理解し、神経障害理学療法に必要な基礎知識を身につけることを目的とする。さらに各疾患の症状、各疾患が引き起こす合併症や合併症が引き起こすリスク、予後予測に関しても理解を深める。また病態が引き起こす機能障害、能力低下に関し、神経疾患に特異的な理学療法評価方法および理学療法介入について、最新のエビデンスをふまえながら講義を行い、神経障害理学療法の流れを学習する。

神経障害理学療法学演習

「神経障害理学療法学」で学習したことを基に、

脳卒中や神経筋疾患、脊髄損傷に対する疾患特異的な理学療法評価を学習する。また評価学などで学んだ ROM テストや MMT などの基礎的評価に関しても、神経疾患障害者にどう応用させていくかも学習する。基本的には、臨床での実際と机上での学習の橋渡しとして、症例ビデオを用いたケーススタディを行い、個々の検査結果を統合解釈する過程を通して、問題解決能力の向上を目的に演習を行う。

神経障害理学療法学実習

「神経障害理学療法学」および「神経障害理学療法学演習」で学習したことを基に、脳血管障害に対する介助方法や運動療法を実技形式で学習する。特に歩行、立位、立ち上がり、座位、寝返り・起き上がりなどの基本動作における運動療法を肢位別だけではなく、肢位間のつながりも意識すること、運動学や生理学、運動学習理論を踏まえた motor learning program を実践できるように理解を深める。また従来の疾患特異的な運動療法のみならず、最新のエビデンストレーニングも実践し学習する。脊髄損傷は、永続的で重篤な症候や合併症を引き起こし、日常生活に重大な支障をきたす疾患である。他職種と連携を取りチーム医療を提供し、症状や障害の改善を図る必要がある。その症状や障害を理解するために、臨床症例の動画の活用をしながら学習する。

運動器障害理学療法学

運動器疾患に対する基本的な理学療法評価および治療を行うために必要な知識を身につけることを目的とする。骨折や靱帯損傷などの外傷、リウマチや関節症などの整形外科疾患に関して、「運動器障害基礎論」において学んだ各疾患の病態や医学的な治療法と「理学療法基礎評価学Ⅱ」で学んだ評価方法および評価手技に関する知識を統合して、運動器疾患の理学療法を行うための評価・治療理論を身につける。さらに運動器疾患の術前・術後におけるリスク管理を学習する。

運動器障害理学療法学演習Ⅰ

基本的な運動器疾患の理学療法を行うために必要な知識の再構築と評価・治療手技の演習から、各疾患に対する理学療法の考え方を身につけることを目的とする。骨折や靭帯損傷などの外傷、リウマチや関節症などの整形外科疾患に関して、「人体構造機能学Ⅰ、Ⅱ」、「運動学」、「運動器障害基礎論」、「理学療法基礎評価学Ⅱ」、「運動器障害理学療法学」において学んだ知識を統合し、各疾患に関わる機能解剖、病態、評価、治療・予防の一連の流れを学ぶ。

運動器障害理学療法学演習Ⅱ

「運動器障害理学療法学演習Ⅰ」の内容を踏まえ、各疾患の急性期・回復期・慢性期における理学療法が行えるようになるための評価・治療手技の演習から、各疾患に対する理学療法の考え方を身につけることを目的とする。各疾患の急性期・回復期・慢性期における、リスク管理や治療アプローチはそれぞれ異なるため、実際の臨床場面における各疾患の患者を想定し、必要な評価・治療アプローチを選択して患者へ指導し、実施できる技術を身につける。

内部障害理学療法学

呼吸器・循環器疾患に対するリハビリテーションについて学習する。呼吸器疾患に関しては、主にCOPD、間質性肺炎、肺炎に対する呼吸リハビリテーションについて、循環器疾患に関しては、主に虚血性心疾患、心不全、大血管疾患に対するリハビリテーションについて、その理論的背景から評価、治療までを中心に学習する。

内部障害理学療法学演習Ⅰ

呼吸リハビリテーションで実施される頻度の多い評価である、骨格筋機能、呼吸機、運動耐容能の評価、フィジカルアセスメントについてその方法を理解し、実践する。また症例情報から問題点を抽出する過程を学ぶ。人工呼吸器の機能と役割を理解し、呼吸リハビリテーションとの関わりを知る。治療手技の1つである呼吸介助・排痰法、気管内吸引を体験する。

内部障害理学療法学演習Ⅱ

「内部障害理学療法学」の内容を踏まえ、虚血性心疾患や心不全を中心とした心臓リハビリテーションにおける評価、問題点の抽出、具体的な治療について学習する。とくに全身状態の把握の仕方、リスク管理と運動処方について理解を深め、安全かつ効果的な運動処方を行うことができる能力を身につける。

地域理学療法学

急速に進行する少子高齢化により我が国の社会構造は大きく変化し、保健・医療・福祉・介護領域にも影響を及ぼしている。理学療法を必要とする対象者は増加し、住み慣れた地域で生活できるよう支援するための地域理学療法の充実が必要であり、本科目では自宅で生活するために、介護保険法や障害者総合支援法などの制度を活用した、医療だけではなく保健、福祉、介護における理学療法の支援方法について学び、幅広い視野をもって地域社会に奉仕する理学療法士に興味・関心を広げる。

生活環境学(理学療法)

障害児・者、高齢者が住み慣れた自宅や地域社会において自立した生活を継続することは、対象者のQOL 維持・向上の上で重要である。リハビリテーションは、対象者が抱える心身の障害のみならず、住環境、地域や職場（学校）環境をも考慮した幅広い視野を持った支援が必要である。本講義では、住環境整備に関する基礎的な知識、具体的な手法のほか、「まち」の構造等についても理解し、対象者の特徴を考慮した適切な支援について考察を深める。

臨床見学セミナー(理学療法)

本セミナーでは、職業人としての規律やルール、マナー、対象者とのコミュニケーションのとり方について、グループワークを通じて学習する。理学療法士を目指すものとして必要な豊かな人間性や人を思いやる心を理解し、臨床見学実習にふさわしい人間性を育む。

臨床見学実習(理学療法)

臨床見学実習では、臨床実習指導者のもと、臨床現場における理学療法学生としての常識的態度を身につけ、対象者との適切なコミュニケーションを図り、病院・施設（訪問リハ・通所リハを含む）の概要、理学療法実践過程について体験を通して理解する。

臨床評価学セミナー(理学療法)

本セミナーでは、「臨床評価学実習」に向け、学生同士の小グループで、模擬患者役、療法士役、実施内容確認役に分かれ、これまで“理学療法評価学”で学習した臨床上、必要な知識・技術・態度について演習を交えて理解する。知識、技術、態度面も含めて客観的臨床能力試験（OSCE）を実施する。本科目を通じて、評価の計画、実施、その結果の解釈という一連の流れについて理解を深める。

臨床評価学実習(理学療法)

評価学実習では、実習施設において臨床実習指導者のもと、対象者に対する理学療法評価の計画、実施、その結果の解釈という一連の過程を実習する。
①必要な情報収集、面接観察および検査測定を選択して実施すること、②評価手段によって得られた結果を個々に分析すること、③その結果を解釈すること、④評価過程を適切に記録し、報告することが目標となる。さらにこの過程を通じて、対象者の障害を把握する科学的な観察力や思考力も養う。

臨床治療学セミナーⅠ(理学療法)

本セミナーでは、「臨床治療学実習Ⅰ」に向け、学生同士の小グループで、模擬患者役、療法士役、実施内容確認役に分かれ、これまで理学療法治療学で学習した臨床上、必要な知識・技術について、臨床評価実習より進んだ治療プログラム立案までを実践的に演習を行う。主に中枢神経疾患、運動器疾患を中心に、客観的臨床能力試験（OSCE）を実施する。本科目を通じて、評価の計画、実施、その結果の解釈、さらに問題点の抽出、理学療法プログラムの立案という一連の流れについて理解を深める。

臨床治療学実習Ⅰ(理学療法)

臨床治療学実習Ⅰでは、実習施設において臨床実習指導者のもと、対象者に対する理学療法評価から治療プログラムの立案という一連の過程を実習する。リスク管理を的確に行いつつ、対象者の障害について問題解決する理学療法士としての能力を実践を通して養う。一部、実習期間内に訪問リハ・通所リハの見学・経験を含む。

臨床治療学セミナーⅡ(理学療法)

本セミナーでは、「臨床治療学実習Ⅱ」に向け、学生同士の小グループで、模擬患者役、療法士役、実施内容確認役に分かれ、これまで理学療法治療学で学習した臨床上、必要な知識・技術について、臨床治療学実習Ⅰより更に深い治療の実際までを模擬的ではあるが実践的に演習を行う。主に中枢神経疾患、運動器疾患を中心に、客観的臨床能力試験（OSCE）を実施する。本科目を通じて、評価の計画、実施、その結果の解釈、さらに問題点の抽出、理学療法プログラムの立案という一連の流れについて理解を深める。

臨床治療学実習Ⅱ(理学療法)

臨床治療学実習Ⅱでは、実習施設において臨床実習指導者のもと、対象者に対する理学療法評価から治療実施までの一連の過程を実習する。リスク管理を的確に行いつつ、対象者の障害を治療する理学療法士としての能力を、実践を通して養う。

ケーススタディー

これまでに学んだ理学療法に関する検査測定、個人因子や環境因子を含めた評価、問題点抽出、目標設定、治療プログラム作成・実施について基礎的な知識を基に、整形外科的疾患、中枢神経疾患の症例を中心としたケーススタディーを行う。ケーススタディーを通し、評価項目の選択・結果の解釈ができるように学んでいく。そして得られた評価結果から、統合と解釈および問題点の抽出の仕方についてもイメージすることができ、臨床実習に繋げられるように進めて行く。

理学療法研究法

保健・医療・福祉、すべての領域において根拠を持ったリーディングと治療、支援が求められる。その根拠を作り出す作業が研究である。本講義では、一般的な研究手法に加え、医用統計学、診療ガイドライン、理学療法の研究領域と研究実践について網羅的に学習する。また、研究倫理、インフォームド・コンセント、各省庁・団体が定める研究指針について概観する。さらに、研究発表および研究論文作成の手順・方法について学習する。

理学療法研究法演習(卒業研究)

研究を実施した場合、その研究結果を対象者と社会に対して報告することが求められている。本科目では、理学療法研究法で学習した研究の基本に則り、実際の研究の実施を通じて、研究計画書、倫理的配慮、研究の実施、研究報告に関する理解を深める。また、担当教員の指導の下、プレゼンテーションを行い、またディスカッションを行うことで、その理解をさらに深める。本科目を通じて、思考力、表現力、問題解決能力の総合的なスキルの向上を目指し、生涯にわたり学習し、研究し続ける姿勢を醸成する。

理学療法管理学

本科目では、一般的に身の回りの事項を題材に管理に関する基礎的知識を学習して、更に理学療法部門の業務を適正に管理運営するにあたっての管理についての理解を深め国家試験取得後に現場で活動する医療組織人としての適性を高める事を目的とする。人事管理や業務管理、管理者に求められる能力とリーダーシップ、チームの一員として求められる能力とフォロワーシップ、自己管理と能力開発、学生指導などを学び、障がい者や高齢者など対象者の抱える問題を適切に解決できる、優れた理学療法を提供できる部門管理のあり方について理解を深める。

理学療法ゼミⅠ

本科目では、指導教員の指導のもと、論文抄読を通じて、思考力ならびに科学的な観察力を身に付け

る。論文抄読においては、PICO つまり P: patient、I: intervention、C: comparison、O: outcome を明らかにすることを意識しながら、論文の批判的吟味を行うことができるようになることを目標とする。

理学療法ゼミⅡ

本科目では、「理学療法ゼミⅠ」で学んだ基礎をもとに、論文抄読だけでなく、論文を要約し、プレゼンテーションを行うことで、表現力も身に付ける。また、研究実施の一部参加を通じて、さらに思考力、科学的な観察力を深めることを目的とする。

スポーツ傷害理学療法学

スポーツ損傷に対する基本的な理学療法評価および治療を行うために必要な知識を身につけることを目的とする。スポーツ現場で発生頻度の高い捻挫や靱帯損傷などの外傷と、オーバーユースによって生じる関節障害、成長期に特異的なスポーツ傷害などに関して、機能解剖、病態、受傷機転、診断・評価、治療・予防の一連の流れを学習し、地域のスポーツ競技者・愛好者に貢献できる知識の習得を目標とする。

高齢者理学療法学

本科目では、老年症候群（フレイル・サルコペニア・ロコモティブシンドローム）を中心とした理学療法（評価、治療）および高齢者のリスク管理について講義を行う。

神経筋疾患理学療法学

主に神経及び筋肉の変性に起因する疾患について、その病態生理を理解し、病態を考慮した理学療法評価及び基本的理学療法治療、リハビリテーションを理解することを目的とする。特に本科目では、パーキンソン病、脊髄小脳変性症、多発性硬化症、筋萎縮性側索硬化症、ギランバレー症候群などの進行性の神経筋疾患に対し学習し理解を深める。

神経障害理学療法学特論

「神経障害理学療法学」、「神経障害理学療法学演習」、「神経障害理学療法学実習」で学習した脳卒中や脊髄損傷を中心とした中枢神経疾患に関する知識をもとに、中枢神経障害における具体的な場面を想定した課題について、問題解決型学習を中心に実践する。課題の中から解剖学的・症候学的視点から治療アプローチの関連性について理解を深め、臨床的思考能力を養う。また、グループワーク形式を用いて、コミュニケーション能力や問題解決能力の向上を目的とする。

運動器障害理学療法学特論

筋・骨関節系に関わる人体構造機能学や「運動学」などの“基礎医学”、“理学療法評価学”、“運動器障害理学療法学”、“運動器障害理学療法学演習Ⅰ、Ⅱ”などの理学療法治療学にて得られた知識・技術と、「臨床実習」にて得られた経験を統合し、運動器疾患に対する理学療法が行えるようになるための発展的な学習を目的とする。運動器疾患に関わる理学療法士として臨床現場で働くだけでなく、地域社会に貢献するために必要な専門知識と問題解決能力を養うことを目標とする。

内部障害理学療法学特論

「内部障害理学療法学」、「内部障害理学療法学演習Ⅰ、Ⅱ」で学習した呼吸リハビリテーション、心臓リハビリテーションに関する知識をもとに、内部疾患に対するリハビリテーションにおける問題解決型学習を中心に実践する。具体的には、解剖学的・症候学的視点から治療アプローチの関連性について理解を深めること、グループワーク形式を用いて、コミュニケーション能力や問題解決能力の向上を図る。

生活行為向上リハビリテーション論

私たちの生活は、日常生活における身の周りの動作が滞りなくできるだけでなく、人にとって「意味のある、したい作業」を日々の生活の中で続け、その行為から満足感や充実感を得ることで、健康で充

実した生活を送ることができている。しかし、加齢や病気による心身機能の低下により、これまでできていた生活行為が困難になる等、生活をする上で様々な作業の作り直しが求められる。本講義では、生活意欲を高めるものとなる「意味のある、したい生活行為」を再び行えるようにする生活行為向上のための支援あり方、評価ツールの使用方法、支援の提案の仕方を学習する。

国際医療支援論

海外の医療事情を理解し、発展途上国などにおけるリハビリテーション(特に理学療法・作業療法分野)の現状を理解し、国際協力における理学療法士ならびに作業療法士の役割について考察する。世界の健康問題とグローバルヘルス(国際保健医療)における基本的理念を理解し、グローバルヘルス活動の事例を通してリハビリテーションに対する幅広い視野を持ち、国際的に貢献するための素養を深める。有資格者となった後に、こうした国際医療支援の分野に従事することを希望する者に対し、より高い動機づけとなることをねらいとしている。

4. 専門科目(作業療法学専攻)

作業療法概論

作業療法は、その対象、領域、手段が多岐にわたるが、全てに共通していることは、対象者の意味のある作業の獲得によって、人類の福祉に貢献することを目的としている点である。意味のある作業は対象者個人により異なり、対象者の生活史を把握するためには豊かな人間性が必要となってくる。本科目では、作業療法の評価や治療のプロセスや各領域のアウトラインを理解し、社会に奉仕し得る作業療法を学ぶ学生としての使命感の自覚を促す。

作業学概論

作業は広がりや深さをもっている。日常生活の中の作業に関し、どの範囲までを一つのまとまりとするのかは個人や状況により違う。一つにまとまって

いるように見える作業を詳しく見ていくと、何層にも積み重なっていることが理解できる。作業には人の機能を発達させ、健康を回復させる力がある。人が何かをすること（作業）により人は成長し、人類は進化し、よりよい社会生活を建設していくことができる。本講義では、「特定の人の生活にある作業」という視点から作業の理解と社会的存在意義の理解を深めていく。

作業分析学

作業学概論の内容を踏まえ、作業療法で多く用いられる作業活動（革細工、ネット手芸、籐細工、陶芸、木工、タイルモザイク）の作業工程を体験し、道具や材料の特性や各作業活動の特性を理解するとともに、身体障害領域、精神障害領域、発達障害領域、老年期障害領域における治療的応用（治療目的、治療適応となる対象者、期待される治療効果と段階付けなど）を可能にするための分析的視点と科学的思考力を養う。また、作業活動を実施する上での機器や道具、作業環境に関するリスク管理について学ぶ。

日常生活活動学(作業療法)

対象者の日常生活活動（ADL）を評価し、治療等を実践していくための基本的な知識について学習する。評価方法としては、基本姿勢、基本動作、リーチ動作における観察視点、分析視点について学習する。また、FIM や BI 等の定量的な評価方法について学習する。さらに援助方法としては、福祉用具や自助具などの適応や使用方法についても学習し、対象者の日常生活を支援するための観察力、思考力、問題解決能力を養う。

日常生活活動学(作業療法)演習

「日常生活活動学（作業療法）」の講義内容を踏まえて、対象者の日常生活活動（ADL）を評価し、治療等を支援していくための技術や考え方について演習を通して理解する。具体的には、寝がえり、起き上がり、立ち上がり、移動や移乗も含めた動作の演習や、食事や更衣動作やトイレ動作等の活動分

析方法の演習を通して、日常生活場面におけるアプローチ方法を学習する。また、これらの生活動作を観察して客観的事実として記述し、分析するという過程についても学習する。

義肢装具学(作業療法)

義肢装具学は、身体障害作業療法学において対象者の機能障害を補完するために重要な分野である。義肢装具学における知識・技術は、対象者の機能障害を改善・代償することで、活動制限を軽減し、参加を促進することができる。また、義肢装具の製作を行う義肢装具士との連携が強く求められる分野でもある。そこで本科目では、特に作業療法との関連の深い上肢装具を中心に講義を行い、義肢装具士や福祉との連携に対応できる知識を習得する。

義肢装具学(作業療法)演習

義肢装具のうち、更生用は身体機能を補完・代替し、日常生活や就労・就学のために長期間にわたり継続して使用されるものであり、義肢装具士が製作する。一方、治療用装具・訓練用仮義肢は治療を目的として使用されるものであり、作業療法士が製作する。本科目では、特に作業療法と関連の深い義手を中心に学習し、治療用装具として製作する機会の多いスプリントについて製作演習を行い、対象者の機能障害の改善や代償に対する基本的な技術を習得する。また、対象者が使用していることが考えられる義足についても触れる。

社会生活行為学

作業療法の介入にあたっては、身の回りの日常生活動作に加えて、対象者の役割に関わる日常生活関連活動への支援が重要である。そこで本科目では、ICF 分類における活動・参加に焦点を当て、地域社会で生活するために必要な家事活動、車の運転、職業関連活動、就学活動等を支援するために必要な知識、制度および他職種連携等について学習する。

作業療法評価学(身体・老年期障害)

作業療法の介入における評価過程は、介入の第一

歩であり、治療・指導・援助の介入方法を思考するために欠くことのできないものである。そこで、本講義では身体および老年期障害領域における評価の過程・手段・目的について理解を深め、対象者の全体像を把握するために必要な国際機能分類(ICF)分類について学習する。

作業療法評価学演習Ⅰ(身体・老年期障害)

作業療法の介入における評価過程は、介入の第一歩であり、治療・指導・援助の介入方法を思考するために欠くことのできないものである。そこで本科目では、作業療法評価学で学習した内容をふまえて、人間の身体運動の基本となる関節運動、筋力を評価する手段である関節可動域測定、筋力検査(上肢、手指、下肢、体幹)の演習を行う。また、関節可動域制限、筋力低下の治療について講義し、訓練の演習を行う。

作業療法評価学演習Ⅱ(身体・老年期・発達障害)

作業療法の介入における評価過程は、介入の第一歩であり、治療・指導・援助の介入方法を思考するために欠くことのできないものである。そこで、本科目では、作業療法評価学で学習した内容をふまえて、中枢神経疾患および末梢神経疾患および発達障害に対する専門的な検査方法について演習を行い、測定方法を理解する。またその際の特徴的な動作(代償方法、障害に特有の動作等)についても観察、考察できるようになることが目標である。また、観察したことから障害の原因を分析し、問題解決能力を養う。

作業療法評価学(精神障害)

精神障害に対する作業療法評価は「援助のための理解」を目的に行われる「質的評価」が主となる。対象者の活動や参加、環境を評価する。一方、他の障害と同様に、援助の基準、内容を決めるために「量的評価」も必要である。本講義ではこれらを踏まえ、各疾患の評価の進め方、精神障害における評価の特徴、評価尺度について学習していく。

作業療法評価学演習Ⅲ(精神障害)

作業療法評価学(精神障害)を踏まえて、事例を想定し精神障害における評価過程を学習する。精神科領域の評価においてはかかわり行為と切り離せないため、対象者との関係のとりかた、対象者に不利益とならない治療的配慮、そして必要な情報の収集など、混在したかかわり行為についても検討し、その上で情報の収集としての対象者観察、面接技術、作業遂行のチェックや各種精神機能、心理状態、生活状況、自らの語りを受けとめる評価スケールの概要や使用方法について演習を通して体験し習得する。

作業療法評価学(発達障害)

発達期に生じた障害を有する小児にとって課題となるADL、遊び、学業(就労)について作業療法が支援をする上では、これらの基盤となる運動機能、感覚-知覚-認知機能、心理・社会機能といった作業遂行要素への介入が必要となる。作業遂行要素は相互に密接に関係しながら発達しており、対象児にとって必要な支援の方法を探るため、これらの発達過程について理解を深め、幅広い視野をもって、対象児の障害構造を評価する視点を養う。

作業療法評価学(高次脳機能障害)

認知機能が破綻した、あるいは破綻する可能性のある対象者の日常生活を支援することが作業療法士の役割である。本講義では、これまで学習した認知機能の概要、神経機能解剖学を基礎として、既存の神経心理学的検査や評価手法の理論的構造、行動観察の視点について学習を行う。その過程で、種々の認知機能の構造と病態に関する理解を深める。加えて、加齢に伴う認知機能の変化や疾病による認知機能の低下が人の生活に与える具体的影響について学習を行う。

作業療法評価学演習Ⅳ(高次脳機能障害)

認知機能が破綻した、あるいは破綻する可能性のある対象者の日常生活を支援することが作業療法士の役割である。本講義では、これまで学習した内

容を踏まえ、既存の神経心理学的検査や評価手法を、健常者を対象として経験する。その過程で、種々の認知機能の構造に関する理解を深める。加えて、加齢に伴う認知機能の変化や疾病による認知機能の低下が人の生活に与える具体的影響について、それらの検査や評価結果からどのように臨床的推論をすすめていくのかを教授する。

身体障害作業治療学

本講座では、骨関節、中枢神経、末梢神経、筋疾患などの身体障害に対する作業療法の基本的な介入について解説し、各疾患別による障害の症状や病態像、評価、作業療法介入・治療・訓練について学習する。また、各疾患に関連する基本的知識や、治療原理、社会サービスの適応についても学び、具体的な介入方法や基本技術を習得する。

精神障害作業治療学

生物・心理・社会的側面を持つ精神障害への治療・介入は単一の特殊技能にとどまらず、複合的なアプローチによる協業的、相互作用のかつ多元的な作業療法的支援が重要となる。本講座では、各種疾患・障害像から生活障害の起こりやすい状況の理解と特性に合った対応を学習することを基本とし、心理社会的側面の治療的アプローチを題材に、主体的生活者としての対象者について、多面的な理解、より良い予防的かつ効果的なリハビリテーションアプローチ、作業療法アプローチ、治療の構成・構造について、集団的機序を通して意見交換することでさらなる理解を深める。

発達障害作業治療学

発達期に生じた障害を有する小児では、疾患により特徴的な問題を抱え易く、また、現在のみならず将来に亘りライフステージによって対処すべき課題があり、療育の視点に基づいた作業療法支援が必要となる。本講義では、作業遂行要素の評価を基に、とくに脳性運動障害児、発達障害児、進行性疾患（筋ジストロフィー）の障害構造、発達過程での対処すべき課題に対する理解を深める。また、代表的な治

療理論について理解し、対象児への具体的な作業療法介入について幅広い視野から考察を深める。

老年期障害作業治療学

超高齢社会の現代は、高齢者の生活障害を予防・改善し、生活の質を高める作業療法介入が重要視されている。老年期の作業療法では、高齢者が自分らしい人生を送る主体であることを支援するという理念のもと、さまざまな介入が行われている。そこで本科目では、老年学で学習した加齢に伴う心身の変化を踏まえた上で、加齢や老年期の病理に起因する生活障害を理解し、主として維持期（生活期）における対象者への介入について講義を行い、制度を踏まえた実践や多職種との連携に対応できる知識を習得する。

高次脳機能障害作業治療学

何らかの原因で認知機能が破綻したことによる生活障害を有する対象者を支援することが作業療法士の役割である。加えて、加齢や疾病に伴う認知機能の変化・低下を予防し、対象者のよりよい生活を維持するために支援することも作業療法士の役割である。本講義では、これまで学習した内容を改めて概観しながら、あらゆる認知機能の変化・低下に対する支援方法を理論的に学習する。また、現在、地域・医療機関・福祉施設の臨床で実践されている支援方法についても学習する。

総合事例演習

本講座では、作業療法の対象となる疾患について、評価～治療計画～治療をどのように展開するか学習する。演習では既習の知識を統合・応用し、グループワークとプレゼンテーションを中心に行い、様々な思考過程について理解を深める。

総合実技演習

本演習では、既習した作業療法評価学、日常生活活動における評価、検査の臨床的応用について学習する。評価学、治療学実習に向けて、臨床施設の患者や利用者に対する実践方法や必要な背景知識に

ついて学習する。

生活環境学(作業療法)

障害児・者、高齢者が住み慣れた自宅や地域社会において自立した生活を継続することは、対象者のQOL 維持・向上の上で重要である。リハビリテーションは、対象者が抱える心身の障害のみならず、住環境、地域や職場（学校）環境をも考慮した幅広い視野を持った支援が必要である。本講義では、住環境整備に関する基礎的な知識、具体的な手法のほか、まちづくりについても理解し、対象者の特徴を考慮した適切な支援について考察を深める。

地域作業療法学

超高齢社会の進行に伴って、リハビリテーションサービスを必要とする対象者が増加している。対象者が住みなれた地域で生活できるように支援するためには、地域でのリハビリテーションサービスの充実が必要である。そこで本科目では、自宅で生活するために、介護保険法や障害者総合支援法などの制度を活用した、医療だけではなく保健、福祉における作業療法の支援方法について学び、幅広い視野をもって社会に奉仕する作業療法士に興味・関心を広げる。

臨床見学セミナーⅠ(作業療法)

臨床見学実習に向けて、職業人としての常識的行動や責任ある行動、対象者や病院施設のスタッフとの望ましい関係、医療におけるチームワーク、協業について、講義とグループワークによって理解する。実習記録、レポートなどの課題の提出方法、知り得た情報やそのデータの管理方法についても理解する。また、作業療法士を目指す人として必要な豊かな人間性や人を思いやる心についての基礎を理解し、臨床見学実習にふさわしい人間性を育む。

臨床見学実習Ⅰ(作業療法)

臨床見学実習Ⅰでは、臨床実習指導者のもと、臨床現場（医療機関、福祉施設など）における作業療法学生としての常識的態度を身につけ、対象者との

適切なコミュニケーションを図り、病院・施設の概要、作業療法実践過程について体験を通して理解する。

臨床見学セミナーⅡ(作業療法)

臨床見学実習Ⅱに向けて、職業人としての常識的行動や責任ある行動、対象者や地域の臨床現場（通所リハビリテーションや訪問リハビリテーション）のスタッフとの望ましい関係、チームワーク、協業について、講義とグループワークによって理解する。実習記録、レポートなどの課題の提出方法、知り得た情報やそのデータの管理方法についても理解する。また、作業療法士を目指す人として必要な豊かな人間性や人を思いやる心についての基礎を理解し、臨床見学実習Ⅱにふさわしい人間性を育む。

臨床見学実習Ⅱ(作業療法)

臨床見学実習Ⅱでは、臨床実習指導者のもと、地域の臨床現場（通所リハビリテーションや訪問リハビリテーション）における作業療法学生としての常識的態度を身につけ、対象者との適切なコミュニケーションを図り、施設の概要、地域作業療法実践過程について体験を通して理解する。

臨床評価学セミナー(作業療法)

臨床評価学実習に向けて学生同士の小グループ（模擬患者役、療法士役、実施内容確認役）に分かれ、講義内容に記された項目を通して臨床上必要な知識・技術・態度について学習し、各自に対し試験（客観的臨床能力試験：OSCE）を実施する。また、これまでの臨床実習と同様に、職業人としての常識的行動や責任ある行動、対象者や病院施設のスタッフとの望ましい関係、医療におけるチームワーク、協業について再度理解を深める。

臨床評価学実習(作業療法)

臨床評価学実習では、実習施設において臨床実習指導者のもと、対象者に対する作業療法評価の一連の過程を実習する。対象者と適切に対応し、リスク管理を的確に行いつつ、対象者の障害を把握する科

学的な観察力を、実践を通して養う。

臨床治療学セミナーⅠ(作業療法)

臨床治療学実習Ⅰに向けて学生同士の小グループ(模擬患者役、療法士役、実施内容確認役)に分かれ、講義内容に記された項目を通して臨床上必要な知識・技術・態度について学習し、各自に対し試験(客観的臨床能力試験:OSCE)を実施する。また、これまでの臨床実習と同様に、職業人としての常識的行動や責任ある行動、対象者や病院施設のスタッフとの望ましい関係、医療におけるチームワーク、協業について再度理解を深める。

臨床治療学実習Ⅰ(作業療法)

臨床治療学実習Ⅰでは、実習施設において臨床実習指導者のもと、対象者に対する作業療法評価および治療計画立案までの一連の過程を実習する。対象者のリスク管理を的確に行い、対象者の障害を解決する能力を、実践を通して養う。

臨床治療学セミナーⅡ(作業療法)

臨床治療学実習Ⅱに向けて学生同士の小グループ(模擬患者役、療法士役、実施内容確認役)に分かれ、講義内容に記された項目を通して臨床上必要な知識・技術・態度について学習し、各自に対し試験(客観的臨床能力試験:OSCE)を実施する。また、これまでの臨床実習と同様に、職業人としての常識的行動や責任ある行動、対象者や病院施設のスタッフとの望ましい関係、医療におけるチームワーク、協業について再度理解を深める。

臨床治療学実習Ⅱ(作業療法)

臨床治療学実習Ⅱでは、実習施設において臨床実習指導者のもと、対象者に対する作業療法評価および治療実施までの一連の過程を実習する。対象者のリスク管理を的確に行い、対象者の障害を解決する能力を、実践を通して養う。

作業療法研究法

保健・医療・福祉、すべての領域において根拠を

持ったリーズニングと治療、支援が求められる。その根拠を作り出す作業が研究である。本講義では、一般的な研究手法に加え、医用統計学、診療ガイドライン、作業療法の研究領域と研究実践について網羅的に学習する。また、研究倫理、インフォームド・コンセント、各省庁・団体が定める研究指針について概観する。さらに、研究発表および研究論文作成の手順・方法について学習する。

作業療法研究法演習(卒業研究)

研究を実施した場合、その研究結果を対象者と社会に対して報告することが求められている。本講義では、作業療法研究法で学習した内容に基づいて、研究計画書作成、倫理同意書作成、研究実施、研究報告の過程を体験する。また、上記の過程については担当教員の指導の下、担当教員と小グループ(ゼミ)内で研究の進捗状況を確認しながら進める。また小グループ内での批判的ディスカッションを行うことで研究の意義や目的を確認するプロセスや研究の楽しさを学習する。

作業療法管理学

講義を通して、リハビリテーション部門および作業療法部門の組織体系について理解し、医療・福祉・介護領域(病院・施設等)での役割について理解する。また、組織における作業療法部門の位置づけと、実際の管理、運営方法について学習する。また、作業療法に関わる診療報酬や施設認可の規定、記録等の個人情報の取り扱い、医療事故・ヒアリハットに対する危機管理等の実際や、守秘義務等のチーム医療で必須となる職業倫理について理解を深める。

作業療法特別セミナー

作業療法士として臨床業務を遂行するにあたっては、生涯学習は欠かせないものであり、新しい知見や制度改定に対応していくことが求められる。そこで、本科目では、多岐に渡る作業療法領域の中からいくつかのトピックについて着目し、グループワークを通して、応用的な治療方略や支援方法を調査・学習しながら、生涯学習の基盤となるような探

求心、問題解決能力、思考力を養う。

特別支援教育概論

2007 年度より施行された特別支援教育制度では、対象を知的に遅れのない発達障害の児にも広げ、乳幼児期から就労に至る過程に亘って、個々の特徴を踏まえた上での支援を目指している。支援の過程では教育以外の医療、福祉分野との連携が求められており、以前に増して作業療法士による支援が求められる機会が増えている。本講義では、現場での支援に携わっている作業療法士の実践から、教育、福祉分野との連携について学び、地域に貢献できる作業療法士のあり方について考察を深める。

箱づくり法

箱づくり法は、箱を作り、振り返る一連の作業を通して対象者の作業能力・対人技能などを評価する作業面接である。作業体験を共有することにより、客観的指標と主観的体験内容に基づき、具体的な援助を対象者と確認することができる。また、数値化、視覚化されたデータは対象者や治療チームに具体的なエビデンスを提供する。本講義では、臨床で使えるようになることを重視し、箱づくり法のやり方やデータの読み方を中心に、臨床場面で見落とし、見誤り、思い込み陥りがちな治療者自身の“評価の目”を養うことを目的とする。

身体・老年期障害作業治療学特論

本講義では身体・老年期障害領域の作業療法で対象となる疾患の特徴や、作業療法支援の実例を通して、具体的な治療展開、支援方法について理解を深める。また、文献検索、文献抄読、グループワーク、プレゼンテーションを通して、症例を深く掘り下げて考察することを学ぶ。また、臨床現場における事例のまとめ方や発表の方法についても学習する。この事例研究の過程を通して、身体・老年期障害領域における知識や実践方法についての探求心を深めていく。

精神障害作業治療学特論

事例報告、事例研究の文献をもととして、疾病性と事例性の混在する精神障害領域の対象者について、そのかかえている多層的な生活機能の諸点と作業療法支援の実例から理解ならびに探求を深める。個々の症例を取り巻く状況は複合的な要因の相互作用によるため、一面的に終わらずに各々の生活機能の分析と関係性を踏まえることが必要である。対象者の意思、要望を踏まえた上で適切に作業療法支援を進めていくための段取りや考え方を身につけられるように進めていく。

発達障害作業治療学特論

文献抄読を通じて、発達障害領域で作業療法の対象となる疾患の特徴や、作業療法支援の実例から、対象児の有する様々な要素によって優先されるべき課題など、具体的な介入の視点、ポイントについて理解を深める。また、障害を有する児に対して治療手段として用いられる玩具・遊具などの持つ要素について理解し、その作製や活用法について考察を深める。既習の知識に基づいたこれらの課題を通して、発達障害領域における作業療法の実践についての探求心を深める。

生活行為向上リハビリテーション論

私たちの生活は、日常生活における身の周りの動作が滞りなくできるだけでなく、人にとって「意味のある、したい作業」を日々の生活の中で続け、その行為から満足感や充実感を得ることで、健康で充実した生活を送ることができている。しかし、加齢や病気による心身機能の低下により、これまでできていた生活行為が困難になる等、生活をする上で様々な作業の作り直しが求められる。本講義では、生活意欲を高めるもととなる「意味のある、したい生活行為」を再び行えるようにする生活行為向上のための支援あり方、評価ツールの使用方法、支援の提案の仕方を学習する。

国際医療支援論

海外の医療事情を理解し、発展途上国などにおけ

るリハビリテーション(特に理学療法・作業療法分野)の現状を理解し、国際協力における理学療法士ならびに作業療法士の役割について考察する。世界の健康問題とグローバルヘルス(国際保健医療)における基本的理念を理解し、グローバルヘルス活動の事例を通してリハビリテーションに対する幅広い視野を持ち、国際的に貢献するための素養を深める。有資格者となった後に、こうした国際医療支援の分野に従事することを希望する者に対し、より高い動機づけとなることをねらいとしている。

